

平成 26 年度 現代社会学部
自己点検評価報告書
— 教育研究活動の実績 —

1. 概要
2. 概況
3. 教養教育
4. 語学教育
5. 専門教育
6. 留学生教育
7. 教育改善・FD活動
8. 学生生活・学生支援
9. キャリア支援
10. 国際交流
11. 地域交流・地域貢献
12. 入試対策
13. ホームページ、広報活動
14. 研究活動
15. 大学・学部の戦略・運営に関する検討
16. 後援会・保護者対応、同窓会
17. 出講プログラム、外部委員会・審議会、地域団体等との連携活動

平成 27 年 3 月

富山国際大学 現代社会学部

1. 概要

1. 実績・現状

(1) 本学の理念、学部教育目標の達成

富山国際大学の基本理念は「共存・共生の精神と知性を磨く教育を基本に、時代の潮流に対応できる、健全にして個性豊かな人材を育成して、国際社会および地域社会の発展に寄与する」である。

現代社会学部の教育目標は、「これからの 21 世紀を支える、国際的センスを持った、地域に精通し、かつ常に時代の潮流に対応できる実践的な人材を育成する」ことである。

アドミッションポリシーは、現代社会が抱えている問題を自ら発見・解決し、未来の創造に積極的に参加しようとする以下のような人である。

- ①人と環境に配慮した観光政策・観光産業による地域社会の持続的発展に、高い関心を持つ人。
- ②環境に対する専門的知識と行動力を養い、地域や企業で豊かな環境を創造することに、高い関心を持つ人。
- ③地域社会や組織の持続的発展のために、情報通信技術を活用し企業等の経営を創造・革新すること に、高い関心を持つ人。

本学の基本理念、学部教育目標等については明確に定められ、「大学案内」、「学生便覧」などの印刷物や本学ホームページに掲載して、学内外へ情報発信し周知している。

(2) 分野別特徴

a. 教養教育

本学の教育理念・目標に沿い、共存・共生のアプローチ科目（社会生活基礎科目・社会理解基礎科目）、時代の潮流へのアプローチ科目（情報化対応科目・国際化対応科目）、キャリア・実務科目、教養演習科目を開講している。教養ゼミ担当教員によるアカデミックアドバイザー会議を月 1 回程度開催し、ゼミ生とゼミ運営について情報交換を行っている。授業アンケートをふまえた授業改善、教養ゼミの学習内容、教育指導内容の充実が課題である。

b. 語学教育

国際人としての能力の向上を目指し、「基礎英語」の必修化と東アジア地域での国際活動に必要な「中国語」「韓国語」「ロシア語」と「実践英語」のいずれかを選択必修としている。海外協定校への交換留学（長期留学）、語学研修（短期留学）を強く奨励している。各言語それぞれ授業改善を進めている。

c. 専門教育

「基礎科目」「地域づくり科目」「国際交流科目」からなる学部共通科目と、観光・環境デザイン・経営情報の専攻ごとの専攻科目を学び、それぞれの専門分野で活躍できる能力を身につけさせる。本学部の特色ある教育である専攻ごとの「実習」を必修科目としている。地域の施設・企業などの現場や実習場所に出向き、実践活動を行いながら、専攻教育の理解を深めている。

観光専攻は、専攻内におけるFD活動と卒業論文のレベルアップ、環境デザイン専攻は、新カリキュラムの検討と教育指導の開発、経営情報専攻は、教育内容の充実、進路指導の徹底を課題として取り組んでいる。

d.留学生教育

平成26年度は学部留学生、交換留学生、外国人研究生、合計73名在学している。日本語教育はプレースメントテストの成績によりクラス分けしている。学部留学生は全員卒業までに日本語能力検定試験でN1合格を目指している。授業外では、日本の地域社会と触れあう体験活動を17回実施した。

e.教育改善・FD活動

学部学務委員会、学部FD委員会が中心となり教育改善・FD活動を推進した。平成25年から始まった「教員相互授業参観」は、平成26年度においても継続し、現代社会学部専任教員全員が、この2年間の間に最低1回以上の授業を公開した。また、平成26年度はFDワークショップを1回、FD研修会を2回開催した。ほぼ全教員が参加し、自らの授業改善に取り組むヒントを得た。今後の課題は、カリキュラム体系の見直しやシラバスに基づいた成績評価の励行、休退学の防止と困窮者対策、授業改善に向けたFD活動の活発化である。

f.学生活動・生活支援

学生主体の大学づくりに向けた取り組みを推進した。新入生オリエンテーション、スポーツ文化交流会、大学祭等の改革・改善に向け、学友会・大学祭実行委員を中心とした学生と学務委員を中心とした教職員が話し合いを重ねた。また、学生生活アンケートや卒業生アンケートで大学への要望を具体的に聞き取り、改善に取り組んでいる。

g.キャリア支援

キャリア科目として、1年生必修の「キャリア・デザイン講座」、3年生必修の「キャリア支援講座」を開講している。教養演習（1年、2年）では、SPI演習を導入した。インターンシップはこれまでの夏季に加え、2月から3月にかけても実施した。また、海外インターンシップ先の開拓に注力した。平成26年度より、公務員試験対策講座（PAP）を開設し、公務員行政職コース21名、消防警察コース1名、消防警察短縮コース11名、合計33名が受講した。

h.国際交流

留学生への学習・生活指導、海外協定校との連携による海外研修・留学プログラムを、国際交流センター委員が担当職員と協力し実施している。平成26年度は新たに27名の学部生、交換留学生を受け入れた。

派遣、受け入れともに留学生の確保が課題である。派遣では奨学金獲得、受け入れでは、2+2協定校の拡大に取り組んでいる。

i. 地域交流・地域貢献

主に本学園サテライト・オフィス「地域交流センター」で実施している、平成 26 年度はエクステンション・カレッジを 30 講座開講し、237 名の参加があった。サテライト市民講座は、11 講座開講し 163 名の参加者を集めた。さらにエクステンション・カレッジ特別講演には 140 名の参加者があった。今後の課題としてはエクステンション・カレッジの集客力向上と新たなプログラムの開発があげられる。

j. 入試対策

平成 27 年度入試の結果、総計 116 名の入学者が確定した。現代社会学部志願者はのべ 217 名で昨年比 20 名増加し、入学者は 6 名増加した。入試種別、高校別入学者数を分析し、来年度入試に向けての対策を策定した。対外的にアピールできる本学の売り・魅力の継続的発信、重点校対策など、取り組める課題から早急に実施している。

k. HP・広報活動

大学ホームページによる広報活動の実績（アクセス件数等）、大学に関連する新聞記事等の掲載実績をまとめた。平成 26 年度は現代社会学部では、年間 121 本の新聞記事が掲載された。学部の活動状況を広く社会に広報するために、大学の特徴ある授業、大学のイベント、学生の活動、教員の社会活動や研究などに関して積極的に報道機関に取材依頼している。

l. 研究活動

教員による学会発表、論文発表を集計した。紀要論文は多くの教員が執筆した。平成 26 年度より紀要の学内査読制度が施行された。競争的資金等による採択研究の実績を集計した。大学運営業務の効率化し、研究時間の確保することが課題である。

m. 大学・学部の戦略・運営に関する検討

学長室スタッフ会議の業務内容と検討事項を記載した。課題は大学の特徴づけ、差別化、優位性をいかに図っていくかである。

n. 後援会・保護者対応

後援会理事会・後援会総会、保護者懇談会（2回）を開催した。後援会総会や保護者懇談会に出席される保護者の方を増やし、教職員と保護者との対話・連携を強化ことが課題である。

o. 出講プログラム、外部委員会・審議会、地域団体等との連携活動

出講プログラム、外部委員会・審議会、地域団体等との連携活動状況をまとめた。授業および学内業務優先を原則として、適切に対応することが大切である。

2. 課題

(1) 入学定員の確保

平成 27 年度入試において 116 名の入学者を確保した。前回入試と比べ、入学者数は 6 名増加した。しかし依然として入学定員を確保できていない。この現実には危機感を持ち続け、定員確保するため入試業務担当者だけでなく、すべての部署で教職員が本学部の質的向上に、より一層努力する。平成 25 年度末に策定された「富山国際大学アクションプラン 2014-2016」の実施状況をチェックし、同プランを確実に実行する必要がある。

(2) 魅力ある授業の実現

入学時学力および勉学意欲に大きな差がある学生に対して、等しく理解できる授業をすることは大変困難であるが、授業改善を継続し魅力的な授業の実現に努力する。FD 活動などを通して効果的な教育方法の開発、共有を進める。

(3) 高い進路（就職）実績の達成

卒業生全員の進路、特に就職希望者全員の就職を第一に達成する。次に第一志望の進路に進める卒業生を増加させる。公務員対策講座（PAP）など、そのための取り組みをさらに推し進めていく。

2. 概況

1. 実績・現状

(1) 学生の状況

1) 在学者数(平成27年3月31日現在)

学年	総数	男女別				県内外別							
		男性		女性		富山県内				県外・海外			
		人数	比率	人数	比率	男性	女性	計	比率	男性	女性	計	比率
1年生	110	79	71.8%	31	28.2%	66	20	86	78.2%	13	11	24	21.8%
2年生	92	57	62.0%	35	38.0%	38	21	59	64.1%	19	14	33	35.9%
3年生	102	68	66.7%	34	33.3%	54	29	83	81.4%	14	5	19	18.6%
4年生	96	69	71.9%	27	28.1%	50	19	69	71.9%	19	8	27	28.1%
合計	400	273	68.3%	127	31.8%	208	89	297	74.3%	65	38	103	25.8%

※休学者数を含む

2) 県外学生の出身地(平成26年度)

府県	1年	2年	3年	4年	計	府県	1年	2年	3年	4年	計
秋田	2	2	2	1	7	大阪	2	0	0	0	2
福島	0	1	1	0	2	兵庫	1	2	0	0	3
千葉	1	0	0	0	1	愛媛	0	1	2	0	3
新潟	2	0	1	1	4	佐賀	0	1	1	0	2
石川	0	4	0	1	5	長崎	1	2	0	1	4
福井	1	1	0	0	2	宮崎	0	1	0	0	1
長野	0	1	1	1	3	鹿児島	0	0	1	0	1
岐阜	0	1	1	1	3	計	10	18	10	6	44
京都	0	1	0	0	1						

3) 海外学生の出身地(平成26年度)

国名	1年	2年	3年	4年	計
中国	14	13	9	21	57
ネパール	0	2	0	0	2
計	14	15	9	21	59

(2) 教職員

1) 教員組織(平成26年度)

区分	人数	内訳
現代社会学部専任教員	21名	教授10 准教授8 講師3
現代社会学部客員教授	3名	
学園内兼任・兼任講師	3名	子ども育成学部3
学園外兼任講師	17名	
計	44名	

2) 事務職員(平成26年度、東黒牧キャンパス)

区分	人数	内訳
専任事務職員	22名	部長1 参事3 課長4 係長4 主査6 主事3 運転手1
契約職員	6名	職員6
計	28名	

3. 教養教育（教養授業、教養ゼミ、教育指導）

1. 実績・現状

（1）教養授業

- 1) 教養科目として、「社会生活基礎科目」5科目、「社会理解基礎科目」6科目、「情報化対応科目」3科目、「外国語科目」12科目、「日本語科目」10科目、「キャリア・実務科目」8科目、「教養演習科目」4科目を開講。
- 2) 授業評価アンケート結果における総合評価は、5点満点中概ね3点代後半から4点代前半の科目が多いが、中には3点代前半の科目もいくつかあり、何らかの授業改善が求められる。

（2）教養ゼミ

- 1) 合同教養演習1として、前期に「ノートパソコン利用法」、「eポートフォリオ・図書館利用法」、「健康教育・大学生活のためのツールブック利用法」、後期に「北日本新聞連携講座」、「留学生との交流会」を実施。合同教養演習2として、前期2回、後期2回、就職試験プレテスト（SPI問題対策講座）を実施。なお、大学祭時に、教養演習を紹介する展示室を設けた。
- 2) 2年のゼミにおいて、30分程度の時間を充てて15回にわたりSPIの問題演習を実施。
- 3) 学外の業者と提携して、「自己発見レポート（大学生基礎力調査）」を各ゼミにおいて、1年生は2014年5月に、2年生は7月において実施。当該調査の結果は、FD研修において活用された。

（3）教育指導

- 1) 1年、2年ゼミ担当者において、アカデミック・アドバイザー連絡会議を月1回程度実施。ゼミ生とゼミ運営の方法についての情報交換を定期的に行う。
- 2) ゼミ担当教員はゼミ生の授業への出欠状況を把握した上で、問題のありそうな学生については適宜アドバイスをしている。
- 3) 保護者との連携として、ゼミ担当教員による成績表コメントの送付、年2回の個別保護者懇談会を実施。

なお、本年度における退学者は1年生は2名（退学率1.7%）、2年生は3名（退学率2.7%）であった。

2. 課題

（1）教養授業

- 1) 授業評価アンケートの結果を踏まえた授業改善。
- 2) 授業科目として、国際関係に関する授業の充実。
- 3) ディプロマ・ポリシーとの関連を意識した授業内容。
- 4) 2年生に対するキャリア関連の授業や講座の実施方法の検討。

（2）教養ゼミ

- 1) 4年次の卒論作成の基礎として、論文作成能力及びプレゼンテーション能力といったアカデミック・スキルの涵養。
- 2) 問題等を抱えた学生や奨学金対象者でGPAの低い学生に対して、アカデミック・アドバイザー連絡協議会がいかに制度的に対応していくかの検討。
- 3) eポートフォリオと「ツールブック」の活用促進。
- 4) ゼミ運営方法に関して、FD研修会等の機会を利用した教員同士の更なる情報交換。
- 5) 2年ゼミにおけるSPI問題演習の実施方法についての再検討。

(3) 教育指導

- 1) 「大学生基礎力調査テスト」に代わるテストの実施方法と活用方法の検討。
- 2) 2年生に対する制度的な就職指導のあり方についての検討。
- 3) 長期留学を促す学生への働きかけや、留学前と留学中の学生に対する指導方法についての検討。

4. 語学教育

1. 実績・現状

(1) 英語

平成 26 年度の基礎英語 I または基礎英語 II (1 年 (前・後)・必修科目) はそれぞれ 6 クラスで行い、専任教員 1 名 (パブリー講師) と非常勤講師 3 名が担当した。実践英語 I (2 年 (前)・選択必修科目) と実践英語 II (2 年 (後)・選択必修科目) を 2 クラスで行い、a クラスは選抜された 1 年生であり、b クラスは 2 年生及び 3 年生の希望者であった。実践英語のクラスを非常勤講師 2 名が担当した。

観光英会話 (3 年 (前)・選択科目) は専任教員 1 名が担当した。ビジネス英語 (3 年 (前)・選択科目) と Oral Communication (3 年 (前)・選択科目) を非常勤講師 2 名が担当した。

新生生のオリエンテーションの時に学生にプレースメントテストを行い、基礎英語のクラス分けをし、実践英語 Ia / IIa の合格者を選抜した。能力 (テストの点数) をもとに基礎英語の A,B,C,D,E,F 能力別のクラスを作り、原則として前期と後期クラスは変わらないようにした。その結果、多くの学生が自分の英語力のレベルにふさわしい授業内容・英語練習などを受けた。

実践英語はアメリカとオーストラリア出身の非常勤講師が担当し、学生は、自身のアメリカ (カナダなど) ないしオーストラリア (ニュージーランドなど) の文化などをより深く学ぶことが出来た。

(2) 中国語

1) 履修者数および成績評価結果

項目	人数 (人)	割合 (%)	備考
履修学生数	55	100%	
期末試験受験者数	54	98.2%	
合格者数	54	98.2%	(内 3 名に課題を課した)
不合格者数	0	0%	

2) 成績評価基準

シラバスに記述した方針 (出席点 20%、受講態度 20%、課題 30%、期末テスト 30%) で成績評価 (素点) を実施。

3) 授業の成果と問題

授業アンケート分析によると履修者の 80%以上は、中国語授業を受けて満足したという答えがあった。多数の履修者は中国語と中国文化に興味を持つようになったということが分かった。

中国文化の導入から中国語に興味を持たせることができた。

授業の出席率がとてもよかった。確かに中国語の授業が楽しかったという反応をしてくれた。

授業は発音・声調、朗読、短文のつくり、簡単な会話に重点を置き、一人ひとりにきめ細かな指導を行った。また履修者同士の参加型授業、留学生チューターの活動なども導入した。授業中学生に作業時間を与えるのを心がけた。

問題として、クラスには人数が多いそれにほとんど男子学生、野球部に所属している学生が多くいるので、単位だけがほしい学生の勉強意欲が低いことにより、授業中私語したり、携帯をいじったりする現象があった。注意力が引っ張られたことがしばしばあった。

学習意欲が高い学生に授業中では、十分な指導が与えられなくなる時もあったかもしれない。

*観光中国語

①履修者数および成績評価結果

項目	人数 (人)	割合 (%)	備考
履修学生数	5	100%	
期末試験受験者数	4	80%	
合格者数	4	80%	
不合格者数	0	0%	(1名途中から欠席)

②成績評価基準

- ・ シラバスに記述した方針 (課題 30%、期末テスト 30%、授業態度 20%、出席 20% など) で総合的に評価する。

③到達目標

- ・ 中国語の基礎文法を正しく応用ができる。
- ・ 中国人と日常的な会話ができる。
- ・ 辞書を調べながら一般的な中国語の資料が読め、簡単な通訳もできるようにと目指すこと。

④授業の成果と問題

- ・ 授業を通して、到達目標の①と③をクリアできたが、②に関しては、もう少し距離があるようだが、また努力が必要である。
- ・ 言葉の勉強と同時に中国文化、中国事情も触れられて、大変有意義な授業だという評価があり、受講者の勉強意欲を引き出すことができた。
- ・ 少人数の授業なので、一人ひとりにきめ細かな指導が行われた。また履修者同士の参加型授業、留学生との交流なども導入した。授業中学生に作業時間を与えるのを心がけた。

⑤問題

- ・ 26年度は教室での勉強ばかりをしたが、今後実践練習、観光地現場での勉強と練習をかねての会話を取り組みたいと思う。

(3) 韓国語

韓国語は平成24年度入学生から選択必修科目となり、同時に週2回の開講となった。平成26年度「韓国語Ⅰ」(履修登録者24名。単位取得者19名)では、ハングルと発音の習得、続いて会話練習を織り込みながら初級文法を学習した。「韓国語Ⅱ」(履修登録者25名。単位取得者17名)では、「韓国語Ⅰ」で学習した内容を復習した後、過去形や仮定形、推量など基礎的文法事項を学習した。

シラバスで「韓国語Ⅰ」の到達目標に掲げた、ハングルの仕組みを覚え、読み書きでき、簡単な自己紹介ができるレベルは受講生の8割は到達できたとみている。「韓国語Ⅱ」の到達目標に掲げた基本的な文法事項をマスターし、簡単な会話ができるレベルに到達した学生は、数名に留まった。

中級以上の韓国語授業が開講されていないので、本格的な韓国語学習は協定校への留学を勧めている。平成26年度は、韓国語受講生の中で聖公会大学校へ長期留学を希望する学生は2名だった（平成27年度、1名留学中）。留学した学生は「異文化研修（韓国）」に参加した学生でもあった。授業中の韓国留学情報のアナウンスとともに「異文化研修（韓国）」への参加者を増やすことが留学に関心を持つきっかけとなると感じている。

（4）ロシア語

ロシア語を初めて学ぶ学生を対象に、やさしく、楽しい授業を展開し、基本的なことを繰り返すことによって、ロシア語の文字、発音、基本的な会話表現、文法を学び、ロシア社会の初歩的な知識も学ぶことができた。ロシア語の基礎知識を得て、挨拶などの実用的な表現を覚えた。ロシア社会の初歩的な知識も学び、ロシア文化について学ぶことができた。

2014年11月9日に富山県国際・日本海政策課国際交流・とやま国際センターで、第8回富山県ロシア語スピーチコンテストが行い、富山国際大学の学生（4名）が初めて参加した。スピーチコンテストに参加したのは富山大学、富山高等専門学校、伏木高等学校などから参加者全員は23名であった。2014年度ロシア語Ⅰ・ロシア語Ⅱの1年生の履修者は、2014年の4月から全くゼロからロシア語を勉強し始めたが、スピーチコンテスト朗読部門で1位（最優勝）と2位（優勝）を取ることができた。

2. 課題

（1）英語

平成26年度は、実践英語Ⅰa / Ⅱaを受けた学生は2年生になり、2年生及び3年生向けの生向けの実践英語Ⅰb / Ⅱb履修する方法がないので、英語を熱心な2～3年学生に実践英語ではなく週に2回で行う新しい英語の科目（外国語特講）を導入する必要がある。外国語特講を導入するに関わって、教養演習（英語）のゼミを開講しないことになったのは残念に思う。

2年生及び3年生向けの実践英語のクラスは履修者が少なかったが、学生アンケートの満足度から見ると非常に評価が高い授業であった。また、ビジネス英語とOral Communicationのクラスは人数が少なかったが、学生が英会話に自信があるために、2015年度からOral Communicationの授業とキャンパス内で英会話ができるような場所（English Café）を設け、学生を積極的にEnglish Caféを使うように工夫する。学生にTOEIC、TOEFLなどの英語検定に役立つスキルを磨くための環境を作る。

（2）中国語

興味を持ってもらうだけではなくクラス全体の勉強意欲、主体的な学びを引き出すことができるような授業の方法を工夫しなければならないこと。（例えばまず楽しい、生き生き

とした授業雰囲気を作ったり、学生の能動性が目いっぱい生かされたりすることなどを工夫する。)

中国語検定試験向けの練習指導を強化しなければならないこと。一人でも多くの受験者が現れるように努力したい。

チューター制度をもっと有効的に活用し、中国語の履修者との交流や会話練習などを授業の一環としてしっかりと実施したい。

*観光中国語

- ・ 興味を持ってもらうだけではなく学生が主体的に活躍できる授業の形態になるための工夫をしなければならないこと。
- ・ チューター制度をもっと有効的に活用し、履修者との交流や会話練習などを授業の一環としてしっかりと実施したい。

(3) 韓国語

ほとんどの受講生が初めて韓国語を学習するので、スタートラインは同じなのだが、前期終了時点では、学生ごとに顕著な理解度の差ができてしまう。これを解消すべく、授業方法の工夫を重ねている。平成 26 年度より自宅学習を促すため、一週間に 1 回程度復習用の学習プリントを配布、翌週の授業で回収し点検している。

アクティブ・ラーニング（グループワーク）の導入を試みているが、まだ際立つ成果は出ていない。これまでグループのメンバーを定期的に入れ替える、グループ内で話し合いを促すなどしてきた。平成 27 年度はグループ内でのコミュニケーションを活発化させる方策を種々検討し試したい。

「韓国語Ⅱ」の受講者が減少した原因は、中国人留学生の日本語授業と時間割が重なったことだった。平成 26 年度は、日本語授業と重ならない時間割（月曜日 1 限）とした。

(4) ロシア語

1 年生でロシア語を習っても、2 年生になってから使う機会がなければ大学を卒業するまでに忘れるだろうと思う。新しいカリキュラムを作る時に、2 年生及び 3 年生向けのロシア語科目を来年度から導入することとなり、学生に興味を持ってもらうような講義をする方法を考える。

2・3 年でロシア語を勉強することが可能であれば、1 年生でロシア語を勉強し、2 年生及び 3 年生でロシア語を勉強し続け、上達した学生にロシア語検定試験を受けさせる対策を考える。

27 年度の富山県ロシア語スピーチコンテストに学生を参加させ、連続的に優勝をすることのために努める。また、2016 年度から富山県だけではなく、全国ロシア語コンクールに学生を参加させるように努力する。

5. 専門教育

5-1 観光専攻

1. 実績・現状

(1) 観光専攻の専攻科目（講義）

平成 26 年度は新カリキュラム対象者（1、2、3年）、旧カリキュラム対象者（4年）とカリキュラムの切り替えの過渡期であった。観光専攻の1、2、3年対象の新カリキュラムは、27科目開講され専任教員6名と非常勤講師3名で担当した。また、観光専攻の4年次対象の旧カリキュラムは、28科目開講され専任教員6名と非常勤講師3名で担当した。

専攻科目の専任教員担当科目では、授業手法としてAL技法を活用したグループワーク等を使用しながら双方向の授業を行った。授業アンケート等でも、総合評価関する項目では、4点台（5点満点）で評価は高い。

(2) 観光実習

1) 概要

平成 26 年度観光実習は、富山市の旧大山町（上滝地区、福沢地区、本宮・原地区、亀谷地区）をフィールドとして、「交流」という視点から大山町の活性化を考え、その成果を報告書としてまとめ、学内で発表会を行なった。

2) 成果

<教員側からの視点>

- ①自ら課題を設定し、必要なデータを収集、それに基づいた成果を発表するという一連の観光調査を実施できた点。
- ②班長は、リーダーとして班員の意見等を取りまとめたり、役割を分担させたりする作業を実施できた点。
- ③報告書を作成できた点。

<学生からの声、一部抜粋>

- ①実習を通して、本やネットでのデータではわからないことが、自分たちの足で出向くことにより地域を深り、新しい発見があった。フィールドワークの大切さと疑問点があれば住民の方に聞いてみるという積極的に行動することの大切さを学んだ。
- ②1つの地区だけでなく他の地区と比較ができて課題をより深く考えらえた。
- ③実習を通して特産品の開発や地域資源を使いその地域を活性化するために地域資源を発掘し、よく観察するという力が身についた。

3) 課題

授業アンケート等を見ると、プラスの評価が大部分であったが、2年間富山市内の調査や報告書作成を重視した実習内容であったので、来年度は、長期インターンシップ型観光実習を考えている。

(3) 専門演習Ⅰ、Ⅱ

専門演習Ⅰは4名の教員、専門演習Ⅱは4名の教員で担当した。教員別の学生数は次の通りである。

専門演習Ⅰ：高橋（光）教授5名、斎藤准教授7名、佐藤（悦）准教授5名、助重准教授

7名。

専門演習Ⅱ：高橋（光）教授4名、斎藤准教授5名、佐藤（悦）准教授3名、助重准教授6名。

4年次17名は卒業論文を書き上げ、2月7日に卒業論文発表会を行った。

表5-1：卒業論文タイトル

番号	卒業論文タイトルーサブタイトルー
1	駅の多面的利用の現状と課題に関する研究
2	中国天津市民がもつ日本及び富山県に対する観光意識
3	宿泊業界における旅館の差別化戦略ー星野リゾート「星のや東京」を事例にー
4	消費者のニーズに応えた農産物直売所の在り方ー富山県を事例にー
5	河北潟干拓地における観光農園・直売所の存立基盤
6	地域活性化拠点としての空き家の利活用について
7	台湾人観光客の日本観光について
8	宿泊産業における人材育成に関する一考察
9	甲信地域の宿場町における地域活性化への取り組みー中山道・甲州街道の11宿を中心としてー
10	富山県における河川レクリエーションの可能性と課題ーラフティング・Eボートを中心としてー
11	観光資源としての立山信仰に関する研究
12	新幹線開業に向けた地域プロモーションー地域の見せ方とその重要性ー
13	観光産業における朝食提供の重要性と今後の方向性
14	新しい観光資源としての立山砂防ダムの研究
15	プロスポーツチームを活用した地域の活性化
16	中国人観光客の地方への誘致についてー富山県を事例としてー
17	外国人に向けた柳州の観光資源のプロモーション

2. 課題

①専攻内におけるFD活動

平成27年度は、新カリキュラムの1年次～4年次の講義科目が出そろうので、専攻内におけるFD活動として、授業内容の点検や有効な教育技法の共有などを行う予定である。このような活動を通して、より質の高い授業内容や教育技法の向上を目指す。

②卒業論文

レベルの高い卒業論文を書かせるために、3年次からの指導が必要である。特に文献講読により知識を深め、またフィールドワークを行い、4年次の卒業研究につなげることが重要である。卒論指導においてもある程度教員間で最低限の作法（卒論の組み立て、引用箇所の明示等）を共有する必要がある。

5-2 環境デザイン専攻

1. 実績と現状

(1) 新たな取組み

6名の教員それぞれが持つ専門性を学生教育に生かし、特色ある教育を展開して学生の修学意欲を高めると共に教員の研究を促進することを目標に、26年度は以下の新しい取り組みを行った。

- ① 富山市桐谷地区における過疎農山村の再生を目指した研究・教育活動(25年度開始)を発展させ、環境デザイン実習の一部として専攻全体として調査に取り組んだ。その成果は、現代社会学部公開シンポジウムとして広く市民に提供し、106名(内役員7名)の参加者を得て盛況の内に終了した。
- ② タイ北部ナーン県の無電化農村において、ボランティア活動としての文化センター建設をとおして3週間の現地体験を行わせる実習を異文化研修の一環として実施した。参加した学生(8名)は1年間、タイ語の修得を含めて自主学習を重ねての実施である。現地でのボランティア経験もさることながら、事前の積極的なタイ理解研究は内発的モチベーションに裏付けられた実のある教育となった。

(2) 教育指導

①ゼミ教員による学生指導

- ・専門の資格取得を目指した教育指導

エコ検定合格・・・2名

危険物乙4類合格・・・2名

- ・地域企業や地域団体との連携活動

黒部市：でんき宇奈月プロジェクトの視察と宇奈月での調査(1名)、NTT

富山市：生活協同組合、桐谷地区、富山市植物園との連携調査(3名)

南砺市：上平地区での小水力発電基礎調査(1名)

企業：北陸電力でのCSRに関する意見交換会(9名)、

大学周辺：里山集落での課題発見活動(15名)

②卒業研究及び発表会

- ・専攻ゼミ生による中間発表会の実施(7月24日実施)

- ・成果発表会(平成27年2月10日実施)テーマ29件、要旨集作成(1件A4,1ページ)

③専門分野のボランティア活動への学生参加状況

- ・とやま環境フェアでのボランティア活動への参加(参加学生延人数10名)

- ・大学周辺森林整備活動への参加(環境専攻の学生延人数21名)

- ・世界遺産と国際砂防フォーラムでのユースプログラムへの参加(観光専攻・環境デザイン専攻学生合同、合計7名)

④支援を要する学生への対応

- ・卒業が遅れている2名の学生への対応(1名は9月に卒業、他の1名は翌3月に卒業)

⑤留学生への対応

- ・昨年度に引き続き、才田教授を中心とした日本語の指導

⑥グローバル化対応

- ・学生のボランティアの外部講師（タイ語専門家）と留学生を講師とした、現地言語（タイ語）の修得

（3）教員研究活動の推進

①外部の競争的資金採択状況（提供団体と件数）

- 国交省・北陸地域づくり協会（1件）
- 経済産業省・地熱関係助成（1件）
- 富山県ひとつづくり財団（2号助成1件、5号助成1件）
- 富山県新世紀産業機構（1件）
- 第一銀行奨学財団助成（1件）
- 環日本海推進機構（1件）
- 科学研究補助金（研究代表1件、分担研究者5件）

②学会発表活動状況

研究論文掲載件数（査読有）2件 学会研究発表 7件

③教員の専門分野による地域貢献活動状況

高校出講件数 3件 地域・市民向け講演 33件

④専攻教員間の国際貢献活動・研究活動の情報交換会実施（1回／2月）

昨年度に引き続き、第3回（高橋ゆ講師）、第4回（才田教授）を実施

⑤専攻教員・学生が協力した地域研究の実施

卒業研究および環境デザイン実習と連動させ、富山市桐谷地区にて地域調査を実施
成果はシンポジウムにて広く市民に公開

タイトル：「環境から見る富山の中山間地の未来づくり」

日時：平成27年2月15日（日）

場所：富山市・ボルファートとやま4階

2. 課題

環境デザイン専攻希望学生（学年で約40名）は学力のバラつきが大きく、専門ゼミにおける指導方法が課題である。特にスポーツ活動を行っている学生に修学上の問題のある学生が多い。学問への興味や意欲を高めさせ、社会科学系における環境学の意義を理解させることが教育上の重要課題と考える。

（1）新カリキュラムの検討

- － 地域から求められる人材教育の模索とそれに向けた教育内容構築に向けて、授業科目間の再調整と新設科目の設置などを踏まえ平成27年度も継続的に検討

（2）教育指導

- － 学力差を超えて、学生が自主的、意欲的に取り組める指導方法の開発が必要である。タイにおける異文化研修のような「目標感」が奏功する可能性あり
- － 全体としての学力が低い場合の成績優秀者の「吹きこぼれ」を防止する、高いレベルの教育方法が必要

（3）その他

- 地域貢献活動への専攻生の参加促進策の検討
- 海外研修、留学の促進に対する経済的支援の在り方の検討

5-3 経営情報専攻

1. 実績・現状

(1) 専門演習

8名の教員が専門演習Ⅰと専門演習Ⅱを担当した。教員別の学生数は次の通りである。

専門演習Ⅰ：大西教授5名（内1名休学）、高橋（哲）教授8名、長尾教授7名、村瀬教授・佐藤准教授7名、後藤准教授5名、小西准教授7名、谷口講師7名

専門演習Ⅱ：大西教授7名、高橋（哲）教授7名、長尾教授6名、村瀬教授・佐藤准教授7名、後藤准教授5名、小西講師7名、谷口講師7名だった。なお、3年生のうち2名が秋季入学生である。

このほか、高橋（哲）教授、村瀬教授、小西准教授が各1名、合計3名の研究生指導を行なった（いずれも留学生）。全員経営学に関する研究を続けるため、日本の大学院進学を希望しており、希望に沿った指導を行った。3名とも神戸大学大学院経営学研究科博士前期課程に合格し進学した。

(2) 経営情報概論

1) 授業概要

経営情報専攻に所属する全教員が分担して講義した。経営情報の初歩的な知識をできるだけわかりやすく講義した。

到達目標は経営情報専攻科目全体の概要を知ることとした。

2) 授業計画

全15回を以下の内容で実施した。（ ）内は担当教員名。

1. 初めに：「経営情報専攻とは」（村瀬）
2. 社会と企業のつながり：「なぜ企業はCSR活動をするのか」（谷口）
3. 社会と企業のつながり：「企業活動と法の接点～法律や契約に違反したら？」（後藤）
4. 情報と企業経営：「情報システムのツウになろう」（高尾）
5. 情報と企業経営：「企業と経営システム」（高尾）
6. 情報と企業経営：「経営における情報技術の役割～ヒト、モノ、カネの連携とスピードアップ」（小西）
7. 情報と企業経営：「消費者行動と企業経営～ブランドのひみつ」（小西）
8. 経済と企業行動：「情報が集まる場としての『市場』と経済」（大西）
9. 経済と企業行動：「経済学でみる企業行動」（大西）
10. 経済と企業行動：「アジアの経済発展と企業経営」（高橋）
11. 経営学の広がり：「中小企業とベンチャー企業」（高橋）
12. 経営学の広がり：「売れる仕組みづくりを考える」（長尾）
13. 経営学の広がり：「企業経営を学んで」（長尾）
14. 経営学の広がり：「会計への招待」（佐藤）
15. 経営学の広がり：「経営戦略への招待」（村瀬）

3) 学生の評価

授業アンケートの結果は以下のとおりである。

総合評価：3.8、学生の自己評価：3.7、目標の到達達成度：（経営情報専攻科目全

体の概要を知る)3. 8、教員の熱意：4. 2、授業の雰囲気：3. 9、教室環境：4. 0

(3) 経営情報実習

1) 実習概要

これまでに学んだ経営情報に関する専門知識を、企業における実習を通して、より実践的な知識にブラッシュアップすることを目的に行なわれた。併せて、課題解決力、コミュニケーション力、チームワーク力を醸成することを目的とした。対象学年は3年で47名が参加した。

実習先は昨年度に引き続き株式会社ジャパンフラワーコーポレーションと株式会社まちづくりとやまの2社である。

実習日程は、平成26年10月～平成27年1月に15回実施した。

2) 実習の方法

学生を2つのグループに分け、「ジャパンフラワーコーポレーション」と「まちづくりとやま」の本社で実習を行なった。各グループでは更に4～5名のチーム（各グループそれぞれ4チーム）に分かれて作業を行なわせ、各チームにはそれぞれ企業から課題が与えられ、それらをチーム全体で検討しながら作業が行なわれた。最終日に成果発表会を行なった。

3) 各チームに与えられたテーマ

各チームにはそれぞれ以下のテーマが与えられた。

「ジャパンフラワーコーポレーション」では、全体のテーマは「花需要の拡大」で、各チームには次のサブテーマが与えられ、4班に分かれ実習した。

各班のテーマは以下のとおりである。

1班：仏花の需要拡大・新サービスの提案

→ 店舗でのアンケート調査などを実施して、「宅配サービス」を提案した。

2班：シクラメン需要の拡大

→ 統計調査や店舗実習を行ない、「産地ツアー」を提案した。

3班：花育・地域貢献

→ 店舗、社会福祉施設での実習などを行ない、ポスター製作、球根プレゼント等の「花を広めるプロジェクト」を提案・実施した。

4班：「花贈りを増やそう」PR活動

→ 病院へのアンケート実施、店舗実習などを行ない、3班と一緒にポスター製作、球根プレゼントなどを実施した。

「まちづくりとやま」では、全体のテーマは「中心市街地の活性化」で、4班に分かれ、各チームのサブテーマと内容は以下の通りであった。

1班：グランドプラザの賑わい創出

→ 利用者へのアンケートを実施し、様々な問題点を分析した。

2班：「地場もん屋」ウインター売上アップ

→ 店舗で一通りの業務を体験し、売上などを分析した上で、「カメレオンコード」を利用した販売促進を提案した。

3班：中心市街地の店舗調査とデータベースの作成、及び、各店への「なかもん」PRキャ

ンペーン

→ 各店をまわりプロモーション活動を行ない、「魅力あるまちづくり」と「イベント開催」が必要であることを提案しました。

4班：コミュニティーバス「まいどはや」の今後のあり方

→ 市へのヒアリングや現地実査によって分析を行ない、「新停留所案」と「情報誌への広告掲載」を提案しました。

4) 学生の評価

授業アンケートの結果は以下のとおりである。

総合評価：4.4、学生の自己評価：4.2、目標の到達達成度：a(コミュニケーション力、チームワーク力、課題解決力などを向上させる)4.1、b(大学で学んだ知識を活用することを学ぶ)4.3、教員の熱意：4.5、授業の雰囲気：4.5、教室環境：4.3

学生へのアンケート結果から主な意見を抽出すると次の通りである。

①身についた能力という視点から

圧倒的に多かったのがコミュニケーション能力だった。これは、グループ作業を行なうことによってコミュニケーションをとらざるを得ない状況に追い込まれたということだと推察される。これに関連して、共同で作業する能力やチームワークといった能力も多く見られた。また、課題解決力も多くあった。

②その他の意見として

「仕事というものを理解できた」、「積極性が大事だということが分かった」、「今まで話したことのない人と仲良くなれた」などのコメントが比較的多かったコメントである。

(4) 卒業研究

専門演習の集大成として、卒業研究発表会を平成27年2月10日に実施し、46名が発表した。研究テーマは以下の通りである。

「企業におけるロジスティクス戦略」「日本の養殖漁業のこれから」「カラオケ業界の行く先」「PB(プライベートブランド)の今後の展開と課題」「ボルシェとスバルについて」「電子書籍の歴史と展望」「ソーシャルメディアについて」「中国現地コンビニエンスストアについて」「日本のアニメビジネス」「プロ野球ビジネスの現状と展望について」「日本の音楽業界の現状と今後」「高速道路の隆盛とその背景」「ドラッグストアの躍進と今後の発展」「食品スーパーマーケットの今後を考える」「企業再生に必要なリーダーシップ」「サムスン ソニー 経営戦略の研究比較」「音楽産業の研究～日韓を比較して～」「インターネットを使った無料(フリー)ビジネス」「中国と日本の住宅産業比較研究」「ソーシャルゲームについて」「二人の経営者」「理想のリーダー像」「なぜ他社はユニクロになれないのか」「ユーロの仕組み～なぜ英国はユーロに加入しないのか～」「横浜中華街についての歴史的考察～中華街が横浜に及ぼす影響～」「コメの未来についての一考察～TPPが及ぼす影響～」「NISAが投資環境に与える影響～日本の株式市場を中心に～」「国民年金制度～課題と改革～」「少子高齢化が地域社会にもたらす影響」「ネット銀行と決済サービスについて」「ゲームを売るために必要なこと」「Jリーグの経営・利益を出すための経営」「若者の自動車購入・所有に関する調査」「カタレ富山の観客数の拡大」「わが国における生物多様性の現状とこれからの課題」「再生可能エネルギーの利用と今後のエネルギー問題について」「年

金の支払額と受給額についての考察～今後の年金の財源確保の検討を踏まえて～」「違法ダウンロード法～「違法化」と「刑事罰化」の違いと効果について～」「中国電子産業の現状と課題～今後の発展に向けて～」「男女の賃金の格差、未婚者と既婚者の違い」「企業経営での企業スポーツの存在」「舟橋村の人口動向と今後の進む道」「富山港・全国の水産物と富山県での分布域を持つ魚の可能性」「日中の違う消費意識に影響する原因」「ネットショッピング市場について研究」「キャラクタービジネスの行方」

2. 課題

専門演習では学生への個別指導を行なっているが、学外学修を含めて積極的に学習し行動する学生がいる一方で、問題を抱える学生を担当した教員は多くの時間とエネルギーをその学生に費やさざるを得ないのが現状である。また、留学生は向学心が強く熱心に勉学に励む学生がいる一方、一部ではあるが日本語能力のかなり低い者もあり、実習や卒業研究での指導が困難な状況のゼミも見られた。これらについては、専攻教員間で情報交換をしながら全員で指導をあたる気持ちで取り組んできた。能力、意欲の面で学生に大きな差があることは確かだが、教育内容をさらに工夫し全専攻学生の満足度を向上させていかなければならない。

また、専門演習での進路指導についても専攻会議で情報交換を行った。平成26年度は金融機関（銀行・信用金庫）へ就職した学生が大幅に増加した（銀行3名、信用金庫4名）。そのほか、地元有力企業への就職も増加した。専攻での教育指導内容の成果の一部だと考えている。一方、就職活動に悩む学生についても専攻内で情報を共有し、当該学生へのサポートを心掛けた。

経営情報専攻科目の講義については、学生のレベルの幅が広いが、中間層に照準を置いた講義になる傾向が見られる。中間層に照準を合わせながらも、上下の層にある程度満足のいく講義内容を今後も試行錯誤しながら行なっていくことが課題である。

6. 留学生教育

1. 実績・現状

(1) 留学生

- ・学部留学生総数 59名（4年生21名、3年生9名、2年生16名、1年生13名）
- ・交換留学生数 10名、 外国人研究生 4名
- ・留学生国別： ネパール2名、タイ1名、韓国1名、中国66名、ロシア3名
- ・奨学金受給状況： 学習奨励費 月額 48,000円 2名
朝日国際教育財団 月額 25,000円 5名
富山県国際交流奨学金 月額 5万円4名
富山県国際交流奨学金 月額 1万円2名
大学独自の奨学金 月額 2万円 46名
- ・宿舎別入居状況
大学用意した留学生用宿舎23人、民間アパート49人、公営住宅1人

(2) 日本語教育

留学生に早く日本での生活に慣れてもらい、大学の勉強についていけるように、そして将来国際社会に有用な人材になってもらうために、留学生に対して日本語の教育に力を入れてきた。1年次入学時にプレースメントテストの成績によりクラス分けをして日本語の授業を行っていた。

① 通常日本語クラス

留学生を対象にした日本語のクラス

基礎日本語Ⅰ・Ⅱ (週2回)

実践日本語Ⅰ・Ⅱ (週2回)

上級日本語Ⅰ・Ⅱ (週1回)

日本語補習 (週1回)

日本語総合 (集中講義)

② 才田先生と銭輝先生の協力で週2回の補習授業を実施した。

(3) 留生活活動指導

毎月2回ぐらい、水曜午後1年生の留学生を対象とした特別教養演習を実施。(銭輝支援員・湯による)留学生の悩み、困ることについての相談、遵守すべき規律、守るべきルール等の指導。

授業のほかになるべく日本の地域社会あるいは日本人との触れ合いできるチャンスを与えようというつもりで下記の体験活動を実施し、イベントへの参加を案内した。(安全のために山崎・湯が殆ど同行した)

行 事	期 日	場 所	参加人 (留学生)
1 国際交流サロン（雪遊び）	4月2日（水）	富山市	5
2 県内研修（富山市内お花見）	4月13日（日）	富山市	20
3 見学旅行（チューリップフェア 会場 白川郷）	4月29日（火）	砺波市、岐阜県	26
4 県内研修（立山 雪の大谷）	5月10日（土）	立山町	14
5 国際交流サロン（氷見ハトムギ 種まき体験）	5月25日（日）	氷見市	10
6 国際交流サロン（田植え体験）	5月28日（水）	富山市	2
7 国際交流サロン（百万石まつり 参加）	6月7日（土）～ 8日（日）	石川県金沢市	8
8 国際交流サロン（留学生歓迎バ ーベキュー） 国際交流サロン	6月8日（日）	富山国際大学	13
9 （中国語を学ぶ社会人との 交流）	7月16日（水）	富山国際大学	18
10 国際交流サロン（トガリ山登山 体験）	7月19日（土）	立山町	5
11 「佐々成政戦国時代祭り」参加	7月27日（日）	富山市	4
12 国際交流サロン（日本人学生と 富士登山）	8月17日（日） ～19日（火）	山梨県	20
13 巻き寿司体験	10月29日（水）	富山国際大学	23
14 黒部峡谷紅葉狩り	11月2日（日）	黒部市	22
15 生花体験	12月17日（水）	富山国際大学	19
16 留学生総会・懇談会	12月19日（金）	富山国際大学	57
17 国際交流サロン（スキー教室）	1月31日（土） 2月1日（日）	富山市	10

2. 課題

(1) 留学生

教職員の行き届いたところまで留学生の面倒を見ていたことにより、留学生たちが安心して且つ充実な留学生活を送られた。それについて留学生派遣側からも評価を得ている。

26年度に入学された留学生のうちに、自立性が弱いかつ日本語能力も低い学生が数名いた現実がある。今後温かく支援をし続けると同時に留学生の自立性を育てやるのも必要だと思ふ。

(2) 日本語教育

新カリのシステム導入後、卒業までに日本語能力検定試験1級を取らないと卒業ができ

ないという意識を今留学生の中で少しずつ持つようになった。各自が日本語の習熟度によって、自主的に検定試験を受けるようになった。昨年の12月までのテスト成績の把握状況は次の通り

日本語能力検定試験成績：

学年	総人数	N1合格数	N2合格数
1年生	13		2
2年生	16	2	7
3年生	9	3	8
4年生	21	7	1

日本語の成績はまだ喜べない状態なので、迅速に留学生の日本語のレベルを高めてあげることが今後の課題だと思い、専任と非常勤の日本語授業の担当者との緊密な連携、情報交換、授業改善に力を入れることは目下の急務であると認識した。

(3) 留学生活動指導

留学生が勉学以外に積極的に地域社会の活動、イベントに参加するようになりつつあるので、地域社会から一定の評価を受けていた。26年度の富山市民国際交流フェスティバルのカラオケ大会で優勝を勝ち取った。いろいろなボランティア活動への参加により、日本の社会、日本人、日本事情を理解することに大いに役立った。

今後より充実な留学生活を送られるために留学生一人ひとりに日本人と触れ合い、お友達作り、積極的にコミュニケーションが取られるように努力をしてもらいたい。卒業後に日本社会に乃至母国に貢献が尽くせる有用な人材になれることを願っている。

7. 教育改善・FD活動

1. 実績・現状

(1) 現代社会学部 カリキュラム構成概念図（マップ・ツリー）の策定・公開

- ・教養科目・学部共通科目・3専攻の専攻科目のカリキュラム構成概念図（マップ・ツリー）を策定し、ホームページ上で公開した。

(2) カリキュラムの検討・改善

1) カリキュラム検討委員会の設置

- ・改定から3年が経過した現行カリキュラムは、①1年次の必修科目が多すぎて学生の自主性を引き出しにくい、②「社会学士」に相応しい教養科目が十分整備されていない、③資格取得ありきで実用性が伴わない科目もある、等の問題点も生じてきた。
- ・上記の問題点について検討・改善を行い、平成28年度入学生以降に適用する新カリキュラムに反映させるために、平成27年2月に学部学務委員会の下部組織としてカリキュラム検討委員会を設置した。

2) 外国語科目のカリキュラム変更

- ・1年次に「基礎英語Ⅰ・Ⅱ」、「実践英語Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得した学生は、2年次に履修できる英語科目がないこと、中国語・韓国語・ロシア語も2年次配当科目がないことから、さらに語学能力を高めたい学生の要望に応えられなかった。こうした状況を改善するため、平成27年度入学生からは「実践英語」を1年次配当科目として2年次配当の「外国語特講Ⅰ・Ⅱ」を新たに設置した。

(3) 授業改善に向けたFD活動

1) 教員相互授業参観

- ・平成25年度から始まった「教員相互授業参観」は、平成26年度においても継続し、現代社会学部専任教員全員が、25～26年度の間に最低1回以上の授業を公開した。平成26年度に公開した授業科目・担当教員は以下のとおりである。

平成26年度前期 平成26年6月16日(月)～20日(金)			
担当教員名	科目名	配当年次	曜日・時限
助重 雄久	都市と観光	3年	水1
湯 麗敏	国際観光論	2年	木2
パプリー・ボクダン	観光英語	3年	月2
尾畑 納子	生活の科学	1年	水1
才田 春夫	国際協力・ボランティア論	1年	金1
高橋 哲郎	中小企業論	2年	金1
斎藤 敏子	ホテル業論	2年	木1
平成26年度後期 平成26年11月17日(月)～21日(金)			
担当教員名	科目名	配当年次	曜日・時限
小西 英行	経営戦略論	2年	月1
浦山 隆一	生活環境論Ⅱ	2年	月3
村瀬 直幸	経営分析論	2年	水1
長尾 治明	マーケティング戦略	2年	木1
上坂 博亨	資源・エネルギー論	2年	金1
佐藤 綾子	企業会計	3年	金2
谷口 新一	プレゼンテーション論	2年	金4

- ・参観者のコメントは、全て取りまとめて全専任教員に配布し、参観によって得られた知見を教員全員が共有するとともに、今後の授業改善のヒントとして活用した。

2) 授業改善アンケート

- ・平成26年度の担当授業で行った授業改善の内容について、全専任教員を対象としたアンケートを実施した。結果は全教員に配布して知見を共有するとともに、各教員の今後の授業改善のヒントとして活用した。

3) 現代社会学部FDワークショップおよびFD研修会の開催

①第1回FDワークショップ 平成26年9月9日(水)

- ・報告：「学生の予習復習を奨励する試みPART2」（担当：小西英行）
- ・KJ法によるグループワーク「ノー勉に至る学生の心理と、教員による対処について」
- ・フリーディスカッション：グループワークと授業参観・授業改善アンケートのとりまとめを中心に、意見交換を行った。

②第1回現代社会学部FD研修会 平成27年2月12日(木)

- ・ベネッセ担当者による「キャリアアプローチ」結果報告
- ・質疑応答・フリーディスカッション：報告に関して意見交換を行った。

③第2回現代社会学部FD研修会（第2回全学FD研修会） 平成27年3月11日(水)

参加教員22名（うち現代社会学部教員19名）

- ・テーマ「富山国際大学の学生にとって良い授業とは？」
- ・講師：上野寛子氏(明治学院大学)
- ・本学学生及び教員に対して、今回の目的のために設計されたアンケートを事前に実施し、「学生と教員の間、良い授業に対する考え方のギャップ」を講師に分析頂いたうえで、本学教員の授業改善の「特効薬につながるヒント」を具体的に提案頂いた。内部の教員が気付かない点を外部の視点からの確に指摘してもらうことで、本学教員のFDに対する意識が高まり、今後の授業改善への取り組みが進むことが期待される。

(3) 産業界GPでの取り組み

1) アウトカム指標による到達目標ごとの達成度の測定

- ・4つのディプロマポリシー(人としての能力、国際人としての能力、スペシャリストとしての能力、社会人としての能力)のアウトカム指標として、各教科の到達目標ごとの達成度を授業アンケート結果から測定し、平成25年度前・後期、平成26年度前・後期の4期にわたって集計した。

2) 授業における優れた取り組みのデータベース化

- ・平成25年度から開催したFDワークショップ(のべ6回)とFD研修会(のべ3回)におけるグループワークや相互授業参観によって、授業改善の「優れた取り組み事例」に関する情報共有を図ってきた。
- ・蓄積された「優れた取り組み事例」を各教員のこれからの授業改善に生かすためにデータベース化を行った。データベースは、汎用性が高い表計算ソフトを用い、キーワード検索により事例を速やかに抽出できるようにした。

2. 課題

(1) カリキュラムの見直し、改定

- ・平成 27 年 2 月に設置したカリキュラム検討委員会が主体となって、以下の①～④を中心にカリキュラムの再検討を行い、平成 28 年度入学生から適用する。
 - ① 3 専攻を融合するための基礎的な新規科目を設ける。
 - ② 語学教育の強化のために新規科目を設ける。
 - ③ 資格取得ありきではなく、実用性を重視したコンピュータ教育に転換する。
 - ④ 過重となっている 1 年次の必修科目を減らし、2 年次に必修のキャリア科目を設けるなど、配当年次の適正化を図る。
- ・カリキュラム改定にあわせて、ナンバリングの導入を目指していく。

(2) シラバスに基づいた成績評価の励行

- ・GPA による奨学金給付可否の判断等を適正に行うため、成績評価の公正化を図る。
- ・シラバスに記載した成績評価方法に基づき、学生に明確に説明できるような評価を行うよう教員に呼びかけ、著しく成績分布が偏る科目が生じないように配慮する。

(3) 休退学の防止と困窮者対策

- ・平成 26 年度は、成績上位層の他大学転学と経済的困窮による休・退学、除籍が目立ったため、平成 27 年度は以下のような対策を行っていく。
- ・休・退学者の出身校、入試形態等の属性分析を行い、休・退学の要因を分析する。
- ・学生の能力に応じた教育方法を実践し、成績上位層の授業満足度を上げる。
- ・一方で、成績下位層については、授業や課外活動においてモチベーションを上げる道を見つけさせ、それに熱中させることで休・退学防止を目指す。
- ・困窮者対策として、緊急貸付用の基金等の制定を学園内各校に働きかける。

(4) 授業改善に向けた F D 活動

1) 教員相互授業参観

- ・授業を公開する教員が、授業改善に向けてどんな創意工夫をしているのかを参観教員に知ってもらうため、公開授業における改善の見どころを事前に情報提供していただく。
- ・参観教員には改善の見どころを意識して授業を参観し、コメントをしてもらうことで、F D 研修会等における授業改善に関する議論が咬み合うように配慮する。
- ・授業改善のテーマを学期ごとに決め、そのテーマに関する授業改善を意識的に行っている教員の授業を参観することも検討する。

2) F D ワークショップ及び F D 研修会

- ・従来はグループワーク、フリーディスカッション、外部講師による研修会を行ってきたが、平成 27 年度は専任教員による授業改善の取り組みを具体的に紹介いただき、それに基づいたグループワークやフリーディスカッションを行っていく。

3) 産業界 G P の成果の継承・

- ・産業界 G P で整備したアウトカム指標の測定手法の精緻化、授業改善データベースの事例蓄積を継続し、授業改善やアクティブ・ラーニングのさらなる向上に役立てていく。

8. 学生活動・生活支援

1. 実績・現状

(1) 奨学金制度の見直し

- ・第2種奨学金(Ⅱ)〔諸活動特待生〕給付の可否を判定するにあたっては、部活動で努力している学生のモチベーションを上げるため、全国大会出場者や上位入賞者にGPAを加算する制度を設けた。
- ・平成26年度はボート部の全日本選手権等で上位入賞した学生と女子ハンドボールの全国大会出場学生が加算の対象となったが、大多数は加算しなくても奨学金給付要件をクリアしており、加算によって給付要件をクリアした学生は1名のみであった。

(2) 学生主体の大学づくりに向けた取り組み

1) 学友会役員・大学祭実行委員・クラブ会長と学長・学務部長・学部長・学部学務委員長との懇談会開催(平成27年2月10日)

- ・学生との意見交換、学生生活・授業・施設に関する要望の聴取等を行った。

2) 学生主体の大学行事運営とその支援

- ・各種行事については、学生が主体となって運営することを促し、教職員がサポート役に回ることで、学生の自主性を高めるようにした。とくに、平成26年度から開催した新入生オリエンテーションの歓迎会では、クラブ紹介や昼食会を学友会・クラブ会が企画・運営するようになった。この結果、部・サークルや学友会等に参加する1年次生が増え、以下の行事でも1年次生が積極的に参加する姿が目立った。

①スポーツ文化交流会(平成26年6月5日)

②大学祭(紅嶺祭)(平成26年10月25～26日)

③東黒牧キャンパス交通安全運動(毎月1回)

④クリスマスイベント(イルミネーションの点灯・メディアコーナーのデコレーション等、平成26年12月12日～平成27年2月)

(3) 学生生活関係アンケート

1) 学生生活アンケート(平成26年9月29、30日実施)

- ・従来のアンケートでは客観的なデータしか得られず、学生が何を要望しているのかが具体的にわからなかったため、「改善して欲しい点や提案」の記述欄を設けて、具体的な要望や提案を授業や施設の改善等に反映できるようにした。

2) 卒業生アンケート(平成27年2月、各専攻卒業論文発表会終了後に実施)

- ・教室の寒さとLAN環境の不具合に関する改善要望が多数みられた反面、学内にPCが置かれていることに対する評価が非常に高かった。

(4) クラブ・サークル活動(休部中のものを含む)

[部・10団体]硬式テニス部(休部中)、硬式野球部、サッカー部、女子ハンドボール部、

男子バスケットボール部、ボート部、軽音楽部、茶道部、吹奏楽部、ボランティア部

[サークル・11団体]卓球サークル、スキーサークル、バドミントンサークル、ビーチボールサークル、環境サークル、芸術サークル、国際交流サークル、中国サークル(休

部中)、日経講読会、B研(ビジネス資格研究会)、放送サークル(休部中)

2. 課題

(1) 学内環境の改善に向けた調査、提言

- ・卒業生アンケートにおいて改善要望が多かった教室の寒さと LAN 環境の不具合、新入生と保護者から多数の改善要望が出ているロッカーの不備に関して、学生と協力して実態調査を行う。
- ・結果については学務部長、学部長に報告し、緊急性の高いものから改善を要望する。

(2) 学生・教員活動の広報強化

- ・部活動の対外試合の予告や結果、ボランティア活動、ゼミの地域貢献活動等を学外向けにはホームページ、学内向けには電子掲示板等を活用して広報していく。
- ・表彰学生、優秀卒論要旨等についてもホームページに掲載する。
- ・教員の教育研究内容(特色のある授業や研究成果)の公開も進めていく。

(3) 学生のマナーアップ

- ・学生のマナーは、数年前に比べれば目覚ましく改善しているが、一部マナーを守らない学生もいるので、これらについては教員が進んで注意する。
- ・学内でも挨拶をする習慣をつけるよう指導していく。

(4) 学生報奨制度の導入検討

- ・卒業論文の質的向上を図るため、優秀卒業論文表彰制度を制定する。
- ・課外活動に対する学生の積極参加を促すため、ボランティア、大学行事参加、資格取得、TOEIC の点数等をポイント化し、表彰等を行うことを検討する。
- ・年度初めに授業・資格取得・就職・課外活動等の目標を立てさせ、達成した学生にポイントを付与することや、年間獲得ポイントを成績表等に明示して学生の成長度評価指標とすることも検討する。
- ・ポイントの高い学生に対する奨励金の給付(GPA のみでの奨励金給付の見直し)も長期的な検討課題とする。

(5) 「夢へのかけ橋助成事業」の改善、活性化

- ・事業の活性化を図るため、平成 28 年度からゼミでの地域貢献活動等も対象にする方向で検討する。
- ・学長裁量経費等を、活発にゼミ活動を行うゼミの活動費(地域貢献活動費や調査報告書作成費等)に配分してもらうことも検討し、学長に要請する。

9. キャリア支援

1. 実績・現状

(1) キャリア講座

現代社会学部のキャリア講座として、1年次のキャリアデザイン講座と3年次のキャリア支援講座がある。キャリアデザイン講座では、今年度は昨年度に引き続き基礎学力向上を第一の目標とした。具体的には文章能力を高める内容を主体とした。キャリア支援講座は例年通り実践的な内容を盛り込んだ講座とした。キャリア支援講座の主な内容は次の通りである。「海外インターンシップ体験発表会」、「就職試験プレテスト」、「企業研究」、「OB/OGから聞く就職活動と職場経験」、「履歴書講座」、「グループディスカッション」、「スーツの着こなし方&メイク講座」、「プレゼン技術」、「模擬面接実習」、「企業紹介」、「4年生の就職活動体験談」。以上のようにバリエーション豊かなテーマを盛り込んだ。

(2) SPI

今年度は1年次「キャリアデザイン講座」と2年次の教養演習の中でSPI演習を実施した。これは1・2年次での基礎学力向上を目指したものである。

(3) インターンシップ

例年行なわれているインターンシップ推進協議会主催の夏季インターンシップには3年生33名が参加した。また、本学独自のインターンシップとして富山信用金庫のインターンシップは3月に実施され、5名が参加した。

海外インターンシップとしては富山県が主催する大連YKKでは実務研修があり、今年度は1名が参加した。

また、国際交流センターの協力を得て、中国江蘇省・南通大学（南通東レ）およびタイ・ファー・イースタン大学（オイスカ・タイ・Surin環境センター）でのインターンシップを開始した。それぞれ、2名と1名の学生が参加した。

(4) 大学コンソーシアム富山教育連携部会合同企業訪問幹事

25年度に引き続き大学コンソーシアム富山教育連携部会合同企業訪問で幹事校を務めた。8月19日事前研修、8月26日企業訪問、9月18日発表会を実施した。幹事校として連携校との事前調整・打合せ、学生募集、当日のスケジュール管理、バスの手配等様々な業務をこなすことによって予定通り実施できた。

(5) 個別指導

例年通り、履歴書指導、面接指導、キャリアカウンセリングを個別に実施した。また、求人票による企業紹介も適性を見ながらきめ細かく個別に行なった。

(6) 公務員・金融・国際関係企業希望者に対する指導

25年度に引き続き、就職先の質的向上を目指すために、大西教授、後藤准教授、村瀬教授による公務員・金融・国際関係企業希望者に対する個別指導を実施した。25年7月に2年生と3年生のゼミで希望調査を実施した。その内公務員・金融希望者10名に対して個別

に面談を行い、準備の仕方等について指導した。

(7) 公務員試験対策講座 (PAP)

質の高い学生の受入体制を整えるために、26年度から公務員試験対策講座 PAP (パブリックサーバント・アプリケーション・プログラム) を開設した。

コースは、公務員行政職コース(ステップ1~4の4年コース、4ステップ合計で285回427.5時間)、消防警察コース(1年間で75回112.5時間)、消防警察短縮コース(1年間で30回45時間)である。公務員行政職コースについては、今年度はステップ1のみの開講で、次年度以降順次ステップ2、ステップ3、ステップ4を開講する計画である。今年度は公務員行政職コース21名、消防警察コース1名、消防警察短縮コース11名、合計33名が参加した。

(8) 資格取得支援

資格取得を支援するために、国内旅行業務取扱管理者講座(受講者18名)、日商簿記2級講座(受講者3名)、コンピュータサービス技能評価試験ワープロ部門2級講座(受講者10名)、日本語検定講座(受講者28名)を実施した。

(9) 学内合同企業説明会

27年3月3日と6日に東黒牧キャンパスで学内合同企業説明会が開催された。3日は65社、6日は69社。合計133社参加した。また、両学部から約90名の学生が参加した。

(10) 就職状況

27年3月現在、現代社会学部卒業生の就職率は95%であった。また今年度は銀行・信用金に7名が就職し、過去最高となるなど、質の面で一定の成果を挙げることができた。

2. 課題

25年度から開始したいくつかの新施策によって、25年度、26年度と就職先の質の向上が見られた。また、数は少ないとはいえそれが入学者増に結びついた。また、26年度はPAPが開始された。PAPによる公務員合格は4年後に結果が出るが、それでも、この講座の開講が27年度入学生の質の向上に寄与したと考えられる。これら施策の効果はこれから徐々に積み重ねられていくと考えている。来年度以降、地道にこれら施策を継続していくことが大切である。

10. 国際交流

1. 実績・現状

(1) 海外教育機関との協定

- 1) 新たに「2+2 協定」を締結した大学
 - ・ハルビン理工大学栄成校 H26. 5. 14 締結
- 2) 新たに「学生募集に関する協定」を締結した日本語学校
長野国際文化学院（諏訪市）H27. 1. 20 締結

(2) 受入学生数 27 名

- ・学部生 名（天津社会科学院 10 名、大連海洋大学編入学 2 名、
その他の日本語学校 3 名）
- ・交換留学生 名（大連海洋大学 5 名、中国海洋大学 3 名、ウラジオストック経済
サービス大学 1 名、大邱大学 1 名、ファーイースタン大学 1 名、PSU 1 名）

(3) 本学学生の海外派遣数 名

- 1) インターナショナルプログラムズ(短期) 2 名
 - ・ 5 週間（オーストラリア 2 名）
- 2) インターナショナルプログラムズ(長期) 3 名（韓国）
- 3) 海外インターンシップ (大連) 10 日間 1 名
" (南通) 3 週間 2 名
" (バンコク・スリン) 2 週間 1 名
- 4) 異文化研修(中国 8 月 26 日～9 月 2 日 8 日間) 3 名
- 5) 異文化研修(韓国) 9 月 14 日～21 日 8 日間) 3 名
- 6) 国際交流実習（タイ）2 月 24 日～3 月 14 日 21 日間 8 名

(4) 国際交流に関するイベント・研修等への参加学生数（留学生と日本人の合計人数）

- (1) 留学生・日本人学生の交流会 8 回開催 73 名（延べ人数）
- (2) 留学生のための日本文化体験 9 回開催 203 名（延べ人数）

(5) チューター学生

前期 14 名（日本人 7 名、留学生 7 名） 後期 9 名（日本人 5 名、留学生 4 名）

(6) 留学生向け就職説明会開催 8 月 4 日 11 名参加

(7) 語学力向上のための SD・FD 研修会開催 8 月 21 日 20 名参加

(8) 海外訪問団受け入れ

- ・南通大学 11 月 23 日～11 月 25 日 6 名
- ・黒竜江省鶴岡市羅北県文化交流代表団 5 名
- ・フランス EMBA 2 名

2. 課題

- ①中国協定校からの留学生の減少傾向が止まらず、質と人数の確保を如何に行っていくかが課題である。これに対して2+2入学生を増やすべく協定校拡大（南通大、ハルビン理工大）を行ったが、まだ入学者確保に至っていない。今後は編入学生と日本の日本語学校からの新入生確保に向けて努力する必要がある。又、アクションプランプランでは新たな獲得先としてASEAN諸国目を向けているが、これには富山県庁や県内企業と連携して取り組んでいく必要がある。

- ②海外留学・異文化研修参加者を増やすためにJasso奨学金獲得に努力をし、海外体として17名分の枠を獲得することができた。しかし、長期留学に対する奨学金を獲得できなかった。長期留学、特に英語圏への留学生を増やすためには奨学金の獲得に努力する必要がある。

11. 地域交流・地域貢献

1. 実績と現状

(1) エクステンション・カレッジ及びサテライト市民講座Ⅰ・Ⅱの実施

- ・エクステンション・カレッジは30講座を開講。受講者総数は237名。地域社会に根ざしたテーマ、及び、英語、中国語、タイ語など語学系の講座において安定した受講者数であった。
- ・「サテライト市民講座Ⅰ・Ⅱ」（昨年度までのエクステンション・カレッジ・プレビューに替わる無料講座）を実施した。歴史、心理、法学、経済、マーケティング等の分野のテーマで11講座を開講し、受講者総数は163名。

(2) エクステンション・カレッジ特別講演の実施

日時：5月31日(土) 13:30～15:00

講演者・演題：高成麻畝子 氏

『自己啓発・自己プロデュースで なりたい自分を目指す!』

参加者数：140名

(3) 『2014 エクステンション・カレッジ』レビュー作成

2014年度開講した全講座に関するレビューを発行。(2015年4月)

(4) 外部講師招聘

2名の外部講師による講演会及びエクステンション・カレッジの講座を開講した。いずれもタイあるいはタイ語に関する講座であり、盛況であった。

(5) 本学客員教授による紀行写真の展覧会開催

(6) アカデミック・カフェの実施

実施状況の詳細については別紙参照。

(7) その他～サテライト・オフィスの市民への開放

高校生の利用は、例年通り夏季から秋季にかけての受験追い込み期に急増する傾向が見られた。

2. 課題

- (1) エクステンション・カレッジへの集客が課題である。そのためにも、タイムリーなテーマ設定と広報活動のより積極的な展開が望まれる。平成27年度は、市民になじみ深い「サテライト市民講座Ⅰ・Ⅱ」の拡充を図り、参加者の拡大を図ることが急務である。そのために、各学部の教員の協働により学部単位で講座を開講する予定である。
- (2) 平成27年度の「エクステンション・カレッジ特別講演会」については、平成25年度のように年2回の実施に立ち返る。また、人選においては、地元にはゆかりのある現在活躍中の講演者を招聘することが求められる。
- (3) 学内の連携による他の行事によるサテライト・オフィスの利用拡大が求められる。
- (4) 全体の利用者数の増加を目指す。ここ3年間の変化として、毎年5百名以上減少し、2014年度は3千名に満たなかった。これはCiCビル内に他の学習室が設置され、そこが高校生などに利用されるようになったことなどが影響したと考えられるが、当面の目標として年間3千名以上の利用者数を目指したい。

12. 入試対策

1. 実績・現状

(1) 平成 27 年度入試の結果

- 1) 推薦入試においては、定員 55 名に対し 58 名の入学者を確保。新たに設けた推薦入試Ⅱ期で 11 名の入学者を確保できた。また、一般・センター利用型では、合計 60 名定員に対して 49 名の入学者となり、前年比+14 名となった。一方で、外国人留学生の入学者 8 名（前年比-6 名）、AO 入試入学者 1 名（前年比-6 名）と合わせ、総計 116 名の入学者であった。
- 2) センター利用型入試(前中後)志願者は、のべ 72 名と前年比+8 名だったが、入学者は昨年度と同数の 14 名。普通科の生徒の志願者は増えたが、入学にまで結びついていない状況。
- 3) 日本人入学者数は、改組後 8 年では 116→99→112→85→94→82→96→108 と推移。また、今年度の学部志願者は、のべ 217 名で昨年比+20 名で、入学者は 6 名の増加。

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
定員数	120	→	→	→	→	→	→	→
志願者数	215	187	207	169	172	156	197	217
合格者数	187	158	183	153	162	149	183	209
入学者数	132	119	136	104	105	98	110	116

(2) 入試種別による高校別入学者数 () 内の数字は前年度

今年は 1～3 名の出身高校が 23 校 42 名（27 校 48 名）、4～7 名の出身高校が 5 校 26 名、8 名以上の高校出身者 3 校 21 名（4 校 38 名）で、上位 4 校の占める割合は 38 名 38.4% で昨年の 38 名 44.2% より割合が下がり、二極化からやや分散化へと変化した。

入試種別	人数	前年	高校別入学者数
推薦・指定校	17	20	泊 1 / 入善 1 / 上市 2 / 雄山 2 / 富山西 2 / 富工 1 / 富商 2 / 雄峰 1 / 高朋 1 / 新川 1 / 付属 3
推薦ⅠⅡ・専願	16	9	雄山 4 / 富西 4 / 富商 2 / 雄峰 1 / 龍谷富山 1 / 付属 4
推薦ⅠⅡ・併願	3	5	上市 1 / 富商 1 / 付属 1 /
推薦・諸活動 (Ⅰ併願・Ⅱ専願)	22	20	新川みどり野 1 / 八尾 1 / 富工 2 / 富商 5 / 小杉 1 / 新湊 1 / 高工 1 / 高商 1 / 氷見 1 / 福野 1 / 高一 1 / 県外高校 6
AOⅠ・Ⅱ	1	7	新川 1
一般・前	22 +3	19	入善 1 / 八尾 7 / 富いずみ 2 / 富南 2 / 水橋 1 / 小杉 1 + 1 / 高西 2 / 氷見 2 + 1 / 福野 1 / 福光 1 / 付属 1 / 認定 1 / 雄山 + 1 (特奨)
一般・後	4	2	大門 1 / 付属 1 / 認定 1 / 桜井 + 1 (特奨)
特奨・前	4	0	水橋 1 (半額) / 大門 1 (半額) / 高西 1 (半額) / 鹿児島県立川内 1 (半額)
特奨・後	2	0	八尾 1 (全額) / 富南 1 (半額)
センター・前	12	13	入善 1 / 滑川 2 / 八尾 1 / 富山 1 / 富北 1 / 富山いずみ 2 / 富南 2 / 水橋 1 / 付属 1
センター・中	2	1	滑川 1 / 新湊 1
センター・後	0	0	

小 計	108	96	
特別入試	8	14	海外協定校3 / 日本語学校協力校1 / 特別4
合 計	116	110	11名 付属 (昨年、富一12名) 10名 八尾、富商 7名 雄山 6名 富山西 5名 富山南 (3) 4名 富山いずみ、氷見 (1) 3名 入善、滑川、上市、富工、水橋 (0)、小杉 (0)、 高岡西 (0) 2名 雄峰、大門、新湊、福野 (0)、新川 (0) 1名 泊、桜井、新川みどり野、富山、富北、高工、 高商、 福光、龍谷富山、高一、高朋 以上県内出身者101名 (86名) 県外出身者7名 (10名)、留学生8名 (14名) 合計 116名

2. 課 題

(1) 対外的にアピールできる本学の売り・魅力の継続的発信

- 1) 就職実績を含め充実した就職支援体制。キャリア教育の徹底と PAP 講座の実践。
公務員試験合格者、優良企業内定者の増加。
- 2) 留学支援体制の充実と留学実績。
- 3) 大学 HP の適切な管理と更新。
- 4) キャンパスの環境改善。自然の豊かさと人工的環境の融合したおしゃれなキャンパス空間の創造。
- 5) 学生個々の状況に応じて、適切な目標を持たせる学生生活の指導。
- 6) 入学した学生が不満をもたない学生生活。とりわけ授業への満足度のアップ。FD 活動の更なる推進。

(2) 事故や事件などのマイナス・イメージを持たれない明るさと活気の創造

- 1) 日頃からルールやマナーなど規範意識をもたせる学生指導。
- 2) 学生と教職員による各種活動のタイムリーな発信。
- 3) 部活動やサークル活動についての HP 等を利用した情報発信。

(3) 特別奨学生入試による入学生の活用

授業料減免以外に、この入試種別で入学した場合のメリットについて、また、学部
のリーダー的役割を当該学生にいかにも果たしてもらえるか検討する。

(4) 重点校対策

本学に多くの生徒を送ってくれている高校、今後更に入学者数を増やしたい高校の
信頼を勝ち得るために、当該高校出身の在学生の活躍の様子をタイムリーに発信する。

(5) 女子の入学者増

女子生徒にとって魅力ある大学。部活動（例. 吹奏楽部）や就職実績（例. 金融業、旅行業）。

(6) 新幹線開通を視野に入れた広報

長野県のほか、埼玉などの関東圏を視野に入れた広報活動を検討。

(7) 留学生対策

優秀な留学生を確保するために秋入学を実施し、特に2+2による入学者数を増やす。

13. ホームページ・広報活動

1. 実績・現状

(1) ホームページ

2014年度の総アクセス件数は大学全体で約490万件(ホームページ、画像、PDFファイル等を含む)であり、一日平均で約13,400件となっている。これは昨年度比で約13%増となった。また、サーバにかかる負荷やホームページ格納スペースについては現在のところは十分な余裕がある状況である。

(2) 新聞記事、新聞トピックスコーナー

平成25年度から、現代社会学部の活動状況を広く社会に広報するために、大学の特徴ある授業、大学のイベント、学生の活動、教員の社会活動や研究などに関して積極的に報道機関に取材依頼をお願いすることとなった。

平成26年4月～平成27年3月までの運営会議に提出された新聞記事を学部別に整理したのが表13-1である。現代社会学部の学生の投稿記事、学生の活動、教員の活動などが記載されているものを現代社会学部に分類した。現代社会学部では、年間121本の記事が掲載された。

表 13-1：現代社会学部新聞掲載数

時期	学部	現代社会学部		合計
		学生の活動	教員の活動	
2013年3月17日～4月15日		3	4	7
2014年4月23日～5月19日		6	4	10
2014年5月29日～6月14日		3	1	4
2014年6月27日～7月13日		2	2	4
2014年7月21日～8月15日		2	4	6
2014年8月21日～9月15日		8	3	11
2014年9月17日～10月13日		7	0	7
2014年10月15日～11月16日		14	3	17
2014年11月18日～12月14日		14	3	17
2014年12月17日～2015年1月20日		15	2	17
2015年1月22日～2月16日		6	6	12
2015年1月31日～3月19日		5	4	9
合計		85	36	121

新聞に掲載された記事をホームページでも閲覧可能にした「新聞トピックスコーナー」は、平成26年の7月で更新作業が止まっている。その原因としては、各新聞社に掲載のための許可をとる作業に時間がかかり、スムーズに更新ができないことにある。このコーナーをどのように更新するのかは来年度の課題である。

(3) HP の更新

トップページのニュースコーナーに関する投稿実績は表 13-2 のとおりである。現代社会学部では、87 件のニュースを投稿した。

表 13-2：平成 26 年度の大学トップページのニュースコーナーへの投稿状況

	現社		子ども		その他	
	ニュース	イベント	ニュース	イベント	ニュース	イベント
4月	3	0	5	0	3	6
5月	6	0	8	0	3	4
6月	8	0	9	2	11	3
7月	9	0	5	3	5	4
8月	5	0	5	0	4	3
9月	15	0	6	0	2	4
10月	11	2	10	1	11	7
11月	6	1	6	0	2	3
12月	9	2	10	0	2	4
1月	6	2	9	0	0	5
2月	6	0	4	0	1	6
3月	3	1	5	0	5	4
合計	87	8	82	6	49	53
その他:	入試広報課、キャリア支援センター、地域交流センターなど					

また、平成 26 年度には、専攻別のページの更新に取り掛かった。それぞれの専攻のカリキュラム概要、就職先、先輩からのメッセージ等の内容を更新した。

2. 課題

(1) 新聞記事関係

大学の教職員側からの積極的な取材依頼は、平成 27 年度も引き続き行う。その回数を増やすためには、①教員の講義において外部講師を呼ぶ場合は必ず取材を依頼する、②部活の顧問の教員は学生の活動状況（ボランティア活動を含む）を把握し、随時取材依頼を依頼する、③職員もそれぞれの部署でイベントや特別講義等を行う場合は依頼する、④教員はその研究活動を積極的に取材してもらう（読売新聞には「研究室へようこそ」コーナーがある）、等の行動が必要である。

また、平成 27 年度から各教職員の取材依頼の意識を高めるために、毎月 1 日に取材要請のメールを流すことにした

(2) ホームページ関係

迅速な更新作業を行うために、大学の内部に広報活動を中心として行う部署が必要である。技術的な知識を持つ情報センターを中心に HP による広報活動を行うようにする必要はある。

14. 研究活動

1. 学会発表、論文発表および著書

1.1. 学会発表

- AMAGAI, K., UESAKA, H., et al., "A Community-led Development and Implementation of "Low-speed Electric Bus" for Local Revitalization", International Conference of Applied Energy 2014, Taipei, (2014/5/30-6/2)
- UESAKA, H., CHEN G., "Estimation of Total Energy Consumption and Potential of Energy Self-sufficiency Using Hydro Power from a River in a Village in Jiangxi Province, China", 9th International Forum on Ecotechnology, Miyako, (2014/12/20-23)
- 浦山隆一, 「場所に刻印された土地の記憶—集落と御嶽(ウタキ)—」, 第二回学際シンポジウム「生き続ける琉球の村落」, 沖縄県立美術館・博物館, (2014/10/4)
- 渋谷鎮明・山元貴継・浦山隆一・鈴木一馨, 「韓国農村の「村の林」と裨補概念—全羅北道馬耳山周辺地域を事例として—」人文地理学会, 広島, (2014/11/1)
- 山元貴継・鎌田誠史・浦山隆一・渋谷鎮明, 沖縄島南部における「格子状集落」の立地と構造—地籍図を活用した南城市玉城・前川集落の検討—, 日本建築学会九州支部報告, 熊本, (2015/3/1)
- 鎌田誠史・浦山隆一・山元貴継・齊木崇人: 近世期に村立てされた格子状村落の空間構成に関する研究—宮古島・伊良部島の村落を事例として—, 日本建築学会九州支部報告, 熊本, (2015/3/1)
- URAYAMA, T., Ecological Outlook on Environment and Space Formation Technology of Residence and Settlement: from Passive Design to Traditional Planted Forests "Ho:go(抱護)", 9th International Forum on Ecotechnology, Miyako, (2014/12/20-23), (招待講演)
- 尾畑納子, 「アルカリ電解水の洗浄への活用」, 日本繊維製品消費科学会平成26年度年次大会, 京都工芸繊維大学, (2014/6/28-29)
- 尾畑納子, 「超音波洗浄機を活用したアルカリ電解水の洗浄」, 日本繊維機械学会北陸支部, 富山市, (2014/12/19)
- 高尾哲康, 「複数要約筆記文連携による要約筆記品質向上の試み」, 情報科学技術フォーラム FIT2014, K-028, (2014/9/3-5)
- 助重雄久, 「移住者による地域産業の再生—山口県周防大島町を例として—」, 日本地理学会 2014 年秋季学術大会, 富山大学, (2014/9/20)
- 助重雄久, 「『若い力』を活かした島の活性化—民泊・国内移住・域学連携事業の可能性と課題—」, 日本地理学会 2015 年春季学術大会シンポジウム「離島の存続可能性」, 国士舘大学, (2015/3/29)
- 高尾哲康, 「複数要約筆記の自動連携による要約筆記の品質向上」, 情報処理学会全国大会, 5F-05, (2015/3/17-19)
- 柴健次, 太田三郎, 本間基照, 円谷昭一, 金子友裕, 中島真澄, 佐藤綾子, (2014)「大震災後に考えるリスク管理とディスクロージャー(日本ディスクロージャー研究学会特別プロジェクト中間報告)」, 日本ディスクロージャー研究学会第9回研究大会, (2014/5)
- 高橋ゆかり, 久保寺良光, 小林剛, 劉予宇, (2014)「土壌中における鉛の形態変化」, 第20回地下水・土壌汚染とその防止対策に関する研究集会, 和歌山, (2014/6/19-20)

- ゲンティーランビン, 小林剛, 亀屋隆, 高橋ゆかり, 「大気へ排出された鉛の沈着による土壌汚染可能性の評価」, 第 28 回 環境情報科学学術研究論文発表会, 東京, (2014/12/6)
- PAVLIY, B., “Language and the cultural border in contemporary Ukraine” ロシア・東欧学会 JSSEES 2014 年合同研究大会, 岡山大学, (2014/10/5)
- PAVLIY, B., 「ウクライナにおける言語選択とアイデンティティの問題」. 言語文化学会第 28 回大会, 四天王寺大学, (2015/3/21)

1.2. 論文発表

- 上坂博亨 (2015) 「地域循環のいま - 宇奈月温泉で描いた低炭素型エコ温泉リゾートへの夢」, 生活と環境, 日本環境衛生センター, 60(2), 52-56
- Chen, B. Nakama, Y. and Urayama, T. (2014). Planted Forest and Diverse Cultures in Ecological Village Planning: A Case Study in Tarama Island, Okinawa Prefecture, Japan. *Small-Scale Forestry* 13(3): 333-347
- 鎌田誠史, 山元貴継, 浦山隆一, 澁谷鎮明, (2014) 沖縄本島・旧勝連間切の近・現代における村落空間の特徴と変遷—村落空間構成の復元を通じて その2—, 日本建築学会計画系論文集, vol.79No.700, pp.1329-1335
- 山元貴継・鎌田誠史・浦山隆一・澁谷鎮明 (2015) 沖縄島南部における「格子状集落」の立地と構造—地籍図を活用した南城市玉城・前川集落の検討— 日本建築学会研究報告九州支部第54号3 (計画系), 421-424
- 鎌田誠史・浦山隆一・山元貴継・齊木崇人(2015) 近世期に村立てされた格子状村落の空間構成に関する研究—宮古島・伊良部島の村落を事例として—, 日本建築学会研究報告九州支部第 54 号 3(計画系), 417-420
- 尾畑納子(2015)「アルカリ電解水による洗浄の実用化に向けた消費科学的検討」, 洗濯の科学(投稿中)
- ゲンティーランビン, 小林剛, 亀屋隆, 高橋ゆかり(2014) 大気へ排出された鉛の沈着による土壌汚染可能性の評価, 環境情報科学学術研究論文集, 28
- 佐藤悦夫(2015)「テオティワカン<月のピラミッド>出土のパトラチケ期の土器～Burnished Ware の無装飾グループを中心に～」『共生の文化研究』No.9 愛知県立大学 多文化共生研究所 PP.4-27
- 大川かほ莉, 助重雄久(2014) 住民生活と観光の両立—黒部市生地地区を例として—, 自然と社会—北陸, 80, 15-26
- 助重雄久(2015)「『脱稲作』を目指す富山・石川の農業」地理 60(2), 52-59

1.3. 著書

- 尾畑納子(2014)「災害に備えて—洗濯編」改訂版(一社)分担, 日本家政学会, 22-23
- 小西英行(2014) 「ICT への対応に関する研究の諸問題」, KMS研究会 監修 ; 堀越比呂志 編著『戦略的マーケティングの構図—マーケティング研究における現代的諸問題』第12章, 同文館出版, 305-329
- 助重雄久(2014) 宮古島観光におけるインターネットの役割とその変化, 平岡昭利・須山 聡・宮内久光編『離島研究V』海青社, 221-238
- Pavliy, B., (2015) “Language choice and political preferences in Ukraine: can language unite

2. 紀要執筆状況

今年度は論文 9 編，研究ノート 4 編が投稿された。6 割強の教員が論文を投稿しており研究活動が活発に推進されていると評価できる。

<論文>

- 大西一成:物価，消費に与えた金融政策の影響に関する一考察
- 佐藤悦夫:外国人の見た五箇山と白川郷～観光地としての魅力の検討～
- 助重 雄久，三国・芦原地域観光調査グループ:福井県三国・芦原地域における観光の現状と課題
- 高橋哲郎:韓国放送コンテンツの海外展開の問題点と育成策に関する一考察
- 湯麗敏:富山観光への期待 ―中国人留学生・若者の事例を中心に―
- 高橋 ゆかり，尾畑 納子:大学における次世代環境教育プログラム実施に向けての基礎調査
- 谷口新一:地域づくり実習におけるゲーミフィケーションの実践と評価
- 田中友理，上野寛子，小西英行:大学生の実態と教員の印象とのギャップを明らかにする新手法―学生たちが求める要素を取り入れた授業改善に向けて―
- Pavliy, B. :Language and the cultural border in contemporary Ukraine

<研究ノート>

- 大谷孝行:富山県民の笑いに対する意識調査
- 尾畑納子，高橋ゆかり:低炭素社会を創造する次世代育成のための環境教育
- 谷口 新一:地域づくり実習における社会人基礎力の評価
- 上坂博亨，垣内優也:富山県の過疎集落におけるエネルギー消費とその自給可能性～富山市八尾町桐谷地区における予備調査～

3. 競争的資金等による採択研究の概要

3.1. 科学研究費助成事業

26 年度は新規採択課題が無く，継続研究が 1 課題，および研究分担が 5 課題となり，科研費の採択数は 25 年度に引き続き伸び悩んだ。しかし 27 年度については学部で 3 課題（全学で 6 課題）の新規採択が決定しており本年度からは活発な研究が再開される見込みである。

<研究代表者>

- 浦山隆一:琉球の近世計画村落形成に伝統的祭祀施設と村抱護が果たした役割と意味に関する研究

<研究分担者>

- 浦山隆一:有明工業高等専門学校
- 浦山隆一:神戸芸術工科大学
- 佐藤悦夫:愛知県立大学
- 助重雄久:東京大学
- 高橋ゆかり:横浜国立大学

3.2. 富山県ひとづくり財団

同財団からの助成のうち、研究およびアウトリーチに関連する 2 号～5 号助成について掲載する。

- 2 号助成金(富山国際大学現代社会学部公開シンポジウム)
- 5 号助成金(尾畑納子:再生可能エネルギーを核とした限界集落地域の活性化に関する調査)

3.3. 富山第一銀行奨学財団

- 大西一成:富山県中小企業をマクロ・ミクロの視点からみた実証分析
- 高橋ゆかり:室内外における多環芳香族炭化水素およびアルデヒド類濃度と居住環境に関する研究
- Bogdan Pavliy:富山県の観光資源の再評価に関する研究

3.4. その他

- 上坂博亨:宇奈月温泉住民の理解促進度調査,平成 26 年度地熱開発理解促進関連事業(分担)
- 上坂博亨:低落差・低環境負荷を特長とした小河川用たらい型水車の開発,平成 26 年度産学官連携推進事業【新商品・新事業創出 枠】(分担)
- 上坂博亨:黒部市民再生可能エネルギー地域貢献型6次産業化連携「導入組成業務」(分担)
- 尾畑納子:立山カルデラ内の砂防事業と災害意識を市民に広める活動として,北陸地域づくり研究会地域活性化助成事業(代表)
- 高橋ゆかり:学生と地域が共同して形成する地域環境のための次世代環境教育,日本海学推進機構(代表)

4. 評価と課題

- ・ 紀要執筆に関しては十分活発に推進されており,25年度に問題とされた「締切が守られない」点でも26年度は改善された。さらに26年度からは新たに紀要の学内査読制度を試行し(試読と呼ぶ),引用の適切性,参考文献記述の適切性,また記述内容へのコメントなどを著作者にフィードバックするプロセスを開始した。まだ要改良点は多いが紀要の質向上への第一歩がスタートしたと評価できる。
- ・ 科研費採択件数については,26年度の新規採択はゼロ件であり不調であった。だが,27年度はすでに3課題の採択(基盤研究C)が決定しており,今後は研究面で活発化することが期待できる。
- ・ 紀要の件数および学会発表の件数に比して,論文発表件数が少ない印象がある。昨年の報告でも述べたが大学運営業務に時間を取られ論文執筆時間が確保できない事が理由となっている可能性もある。研究活動促進の面からも,IT等をうまく活用した大学運営業務の効率化は依然として課題である。

15. 大学の戦略・運営に関する検討

1. 実績・現状

学長室スタッフ会議では主に、富山国際大学の経営や教学に関する戦略・目標・将来計画、並びに企画本部の運営、大学運営に関することについて、検討・議論を行っている。

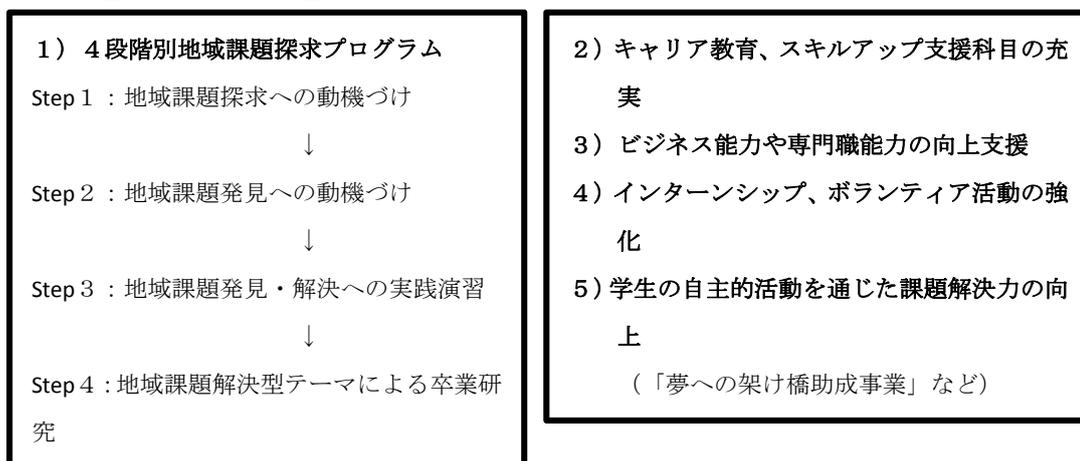
平成26年度は主に、次の事項について検討・作業を行った。

- (1) 平成26年度企画本部会議・企画プロジェクトチームのメンバーに関する検討・決定
- (2) 平成26年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業」の申請書作成と面接審査対応
- (3) 平成26年度文部科学省「私立大学教育研究活性化設備整備事業」の申請に係る書類作成
- (4) 平成26年度文部科学省「大学教育再生加速プログラム」の申請について
- (5) IR 企画活動企画チームの運営—現行学業システムへの各部署入力項目の再点検—
- (6) 担当部局別アクションプランの策定—2014年行動計画策定—
- (7) 学長裁量経費による教育研究課題募集に関する検討・決定
- (8) 学生証 IC カード化の取組
- (9) 南砺市包括協定の準備作業と交渉
- (10) 平成27年度予算編成方針と予算計画書策定
- (11) 富山市包括協定に基づく平成26年度連携事業計画の検討・推進

2. 【特筆事項】大学の基本的戦略に係る2事業の取組概要

(1) 文部科学省「平成26年度地(知)の拠点整備事業」申請書概要版(面接調査で不採択)

①地域課題探求による問題解決力向上プログラムの体系化



②以上の教育の実践によって、「気づく力」「探求する力」「体系化する力」「仮説をたてる力」「検証する力」の5つの要素を兼ね備えた実践的人材育成を行う。

(2) 文部科学省「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」の取組概要
本事業は、平成24年10月から平成27年3月まで行い、本学は中部地区23大学と連携して、①アクティブラーニングを活用した教育力の強化、②地域・産業界との連携力強化を共通の取組テーマとして、教育改善を推進しました。アクティブラーニング

とは、「授業者が一方的に知識伝達する従来型の講義形式ではなく、学生参加型授業、共同学習を取り入れた授業、課題解決型学習や PBL（Problem-Based Learning/Project-Based Learning）など、学生の能動的な学習をとりこんだ授業を総称するもの（富山国際大学事業実績報告書 p 1）」である。

また同時に、北陸チーム6 大学内で連携 FD(研修会)を行い、各大学の取組過程における成果や課題を共有するとともに、それらの成果等を中部圏産学連携会議において検証作業にも取り組んだ。

3. 今後の課題

- (1) 前年度に引き続き、学生の満足度向上のために効果的な授業の実践や事務運営の効率化等を絶えず改善・推進していく必要がある。そのためにまず、学内のさまざまな情報を数値化・可視化して評価指標として管理・運用できるように、毎年「富山国際大学データベース」を作成して行動改善に活用できる仕組みづくりを早急に完成させることが望まれる。
- (2) 今後予想される18歳人口の減少や北陸新幹線開業に伴った地域間競争の激化等の大学を取り巻く環境変化に対応していくためにも、次年度文部科学省に申請することになっている「COC+(プラス)事業構想」を契機に、富山県内で名実共に「就職に強い大学」というブランディング構築をして、本学の特徴づけ、差別化・優位性を図っていく必要がある。

16. 後援会・保護者対応、同窓会

1. 実績と現状

(1) 後援会理事会・後援会総会

①理事会 平成26年5月24日(土) 10:30から、東黒牧キャンパス大会議室

出席者数(理事): 19名

②総会 平成26年6月21日(土) 14:30、オックス・カナルパーク・ホテル

申込者数: 26年度71名、25年度76名、24年度74名

(実際の出席者数は不明)

(2) 保護者懇談会

懇談会にあたり、事前にゼミ担当教員から保護者あてに学生に関するコメントを送付。

①前期: 後援会総会、平成26年6月21日(土)

申込者数: 26年度70名、25年度40名、24年度73名

(実際の出席者数は不明)

②後期: 大学祭、平成26年10月25日(土)、26日(日)

年度	前期	後期	備考
26年度	—	34	申込者数
25年度	—	37	〃
24年度	32	43	〃
23年度	31	43	〃

(3) 同窓会

平成26年8月2日(土)、オックス・カナルパーク・ホテル、

出席者数: 卒業生15名、教育職員20名、事務職員5名、後援会役員5名、計45名

2. 課題

(1) 参加保護者数の増加

後援会総会や保護者懇談会に参加する保護者数を増やし、教職員と保護者との対話・連携を強化することが課題である。

(2) eポートフォリオ学生カルテ

担当ゼミ学生に関する日頃の指導状況をeポートフォリオ学生カルテに記入し、情報共有を図るとともに、保護者懇談会等の資料とする。

(3) 休退学指導記録

引き続き、担当ゼミ学生の休学や退学に関連した指導記録を学内共有フォルダ内に保存し、今後の指導に役立てる。

17. 出講プログラム、外部委員会・審議会、地域団体等との連携活動

1. 実績・現状

(1) 出講プログラム

出講プログラム等による教員の外部講義・講演は以下のとおりである。

氏名	機関名	テーマ	日時	対象	その他
上坂博亨	南越消防組合消防本部	再生可能エネルギーを活用した地域の未来づくり	2014年5月20日	南越地区危険物安全協会	講演
上坂博亨	International Association of Traffic and Safety Society	THE SLOW MOBILITY IN THE SMALL TOWN	2014年5月29日	Workshop at IATSS Forum	講演
上坂博亨	(一社)でんき宇奈月プロジェクト	人口から見る宇奈月の懸念	2014年6月16日	でんき宇奈月プロジェクト会員	講演
上坂博亨	広島経済大学	富山における小水力・電気自動車での地域再生の試み	2014年7月2日	経済学部ビジネス情報学科	外部講義
上坂博亨	立山森林セラピーガイド	エネルギーの話～持続可能な地域社会を目指して～	2014年7月13日	セラピスト研修会	講演
上坂博亨	泊高校	日本と富山の再生可能エネルギー	2014年7月23日	観光ビジネスコース	外部講義
上坂博亨	南砺市桜ヶ池地熱開発理解促進委員会	再生可能エネルギー利用と地域活性について	2014年8月8日	南砺市民	講演
上坂博亨	(一社)でんき宇奈月プロジェクト	ツェルマツ再び	2014年8月11日	でんき宇奈月プロジェクト会員	講演
上坂博亨	富山大学	情報メディアの活用	2014年8月19日	学校図書館司書教諭講習	外部講義
上坂博亨	日本環境衛生センター	再生可能なエネルギーの地産地消と地域づくり	2014年10月22日	富山県民	講演
上坂博亨	酒匂川流域草の根おひさまプロジェクト	「地域でエネルギーを創って賢く使う～富山県宇奈月や海外の事例を中心に～」	2014年11月6日	小田原市民	講演
上坂博亨	中経実務共同組合	地域を救う水商売	2014年11月4日	中経実務共同組合員	講演
上坂博亨	富山国際大学付属高校	再生可能エネルギーでデザインする未来の環境	2014年12月4日		外部講義
上坂博亨	国土交通省	地域資源としての小水力～小水力を活用した地域再生～	2014年12月26日	資源としての河川利用の高度化に関する検討	講演
上坂博亨	マイクライメイトジャパン株式会社	脱温暖化に取組む:地域のエネルギーを活かした新しい地域づくり	2015年1月27日	北陸カーボン・オフセット推進ネットワーク	講演
上坂博亨	南砺市桜ヶ池地熱開発理解促進委員会	「地熱の利活用」を考える	2015年1月31日	南砺市民	講演
上坂博亨	富山ロータリークラブ	地域エネルギーを活かした地域づくり	2015年2月4日	富山ロータリークラブ会員	講演
上坂博亨	大門高校	情報コースの課題研究発表会	2015年2月3日	情報コース2年生	講評
上坂博亨	NPO法人市民環境プロジェクト	アイスランドの地熱利用(視察報告)	2015年2月17日	NPO法人市民環境プロジェクト会員	講演
上坂博亨	南砺市桜ヶ池地熱開発理解促進委員会	地熱を利用する地域の未来	2015年2月21日	南砺市民	講演
上坂博亨	(一社)でんき宇奈月プロジェクト	宇奈月地区での小水力発電の計画	2015年3月28日	でんき宇奈月プロジェクト会員	講演
上坂博亨	エクステンションカレッジ	小水力発電実践講座	2015/5月～7月	一般市民	講演 計5回
上坂博亨	エクステンションカレッジ	大学教授、秘境に行く	2015/5月～7月	一般市民	講演 計1回
大谷孝行	富山赤十字看護専門学校同窓会	笑いと健康	2014年5月17日	富山赤十字看護専門学校同窓生	
大谷孝行	小矢部市総合保健福祉センター	笑いと健康	2014年5月23日	小矢部市ヘルスポランティア協議会会員	
大谷孝行	富山短期大学	笑いと人生	2014年5月28日	富山短期大学「現代社会と人間」講座受講生	
大谷孝行	難病支援センター	笑いの効用	2014年6月28日	難病患者および家族	
大谷孝行	日本リウマチ友の会富山支部	笑いの力	2014年6月29日	リウマチ患者および家族	
大谷孝行	富山国際大学付属高校	現代社会を生き抜くために必要な力	2014年7月8日	付属高校2年生	付属高校進路系統別ガイダンス
大谷孝行	氷見高校	人はなぜ笑うのか	2014年7月14日	氷見高校生	高校出講プログラム
大谷孝行	高岡市寿大学	笑いと人生	2014年7月18日	一般市民	
大谷孝行	KNBラジオ教えてティーチャー	ユーモアのある生き方とは	2014年8月3日	一般視聴者	
大谷孝行	一般社団法人全国軽費老人ホーム協議会	笑いのすばらしさ	2014年9月18日	全国軽費老人ホーム協議会東海・北陸ブ	

大谷孝行	富山市中央保健福祉センター	笑いは人を救う	2014年9月26日	一般市民(高齢者)	
大谷孝行	戸出健康づくり推進懇親会	心の健康と笑い	2014年10月17日	一般市民	
大谷孝行	NPO法人「生活の発見会」富山集談会	森田療法の応用	2014年11月16日	NPO法人「生活の発見会」富山集談会会	
大谷孝行	富山経済同友会	それでもやっぱり笑いたい	2014年11月17日	富山経済同友会会員	
大谷孝行	立山町健康福祉課	笑いのすすめ	2014年11月21日	一般町民	
大谷孝行	発願寺	悩みを深めない生き方	2014年11月23日	発願寺門徒の方々	
大谷孝行	新湊高校	周囲の人々と温かい人間関係を結ぶには	2014年12月9日	新湊高校1年生	高大連携事業
大谷孝行	小杉高校	周囲の人々と温かい人間関係を結ぶには	2014年12月9日	小杉高校総合学科1～3年生	高大連携事業
大谷孝行	富山市立中央児童館	人はなぜ笑うのか	2015年2月9日	富山市立中央児童館職員	
大谷孝行	高岡南高校	コミュニケーションと笑い	2015年3月22日	高岡南高校1年生	高校出講プログラム
大西一成	富山県立氷見高等学校	「探究のエキスパートに学ぶ～経済学を学ぶ～」	2014年5月13日 (火) 14:00～16:00	第2学年 文理探究コース	
大西一成	富山県立高岡南高等学校	キャリアデザイン・プロジェクトS平成26年度「経済学概論～大学で学ぶという視点から～」	2014年7月7日(月) 10:40～11時55分	第2学年	大学・病院等連携講座
大西一成	高岡龍谷高等学校	「北陸新幹線開通による地域経済の活性化と課題」	2015年3月19日(木)	第1学年 特進コース	課題研究における指導
尾畑納子	黒部川扇状地研究会	洗浄と水 ～環境との関連から	2014年5月31日	黒部川扇状地会員、一般市民	外部講演
尾畑納子	高岡市環境を考える市民の会	くらしと環境からみた様々な話題	2014年6月23日	高岡市環境を考える市民の会	総会記念講演
尾畑納子	立山山麓森林セラピー基地推進協議会	「水・よもやま話～くらしと水」	2014年7月13日	森林セラピーガイド・セラピスト	講演
尾畑納子	知事政策局	世界遺産に向けた国際フォーラムユースプログラム	2014年8月21日、24日	富山県内の大学・高専学生	他大学生への講義
尾畑納子	富山県女性校長会	「環境と人」にこだわった40年	2014年6月23日	富山県内の女性管理職	総会記念講演
尾畑納子	富山市教育委員会	おいしい水のルーツを探る	2014年10月23日	一般富山市民	富山市民大学講義
尾畑納子	射水市女性団体	くらしと環境—私たちが取り組めること	2015年2月21日	射水市女性団体会員	講演
才田春夫	高岡南高校	タイの山地民の暮らしから国際協力について考える	2015年3月22日	人文科学コース	出講プログラム
高橋光幸	氷見高校	研究者としての歩み	2014年5月13日	普通科2年生文理探求コース	出講プログラム
高橋光幸	北陸飛騨3つ星街道広域防災共助推進協議会	災害時にも安全安心をアピールできる観光地のあり方	2014年9月10日	南砺市の関係者	観光客向け災害時避難マニュアルの勉強会の講師
高橋光幸	北陸飛騨3つ星街道広域防災共助推進協議会	北陸飛騨3つ星街道における共助と交流のあり方	2014年11月27日	金沢市、南砺市、白川村、高山市の関係者	北陸飛騨3つ星街道広域防災共助推進事業シンポジウム基調講演(金沢)
高橋光幸	富山市南商工会(大山支部)	台湾人観光客の観光動向を踏まえた立山山麓地域の課題	2014年12月11日	富山市・立山町の関係者	「おもてなし」セミナーで講演
高橋光幸	郡上市	北陸からの周遊観光の動向と郡上市の対応のあり方	2014年12月5日	郡上市の関係者	郡上市観光連盟設立10周年記念事業基調講演
長尾治明	富山市中教研社会研究部会	北陸新幹線がもたらす富山の変容	2014.1.20 藤ノ木中学校	中学校教員	
長尾治明	公益財団法人富山県新世紀産業機構	パネルディスカッション「観光がもたらす地域経済の活性化」コーディネーター	2014.10.30 (株)富山県総合情報センター1階セミナー室1	社会人	
長尾治明	富山市職業訓練センター協力会	新入社員研修「最近の経済状況を知る」「営業の視点から企業を見直す時代」	2014.3.27 2014.4.3 富山市職業訓練センター4階視聴覚室	新入社員	
長尾治明	富山県警察学校	経済問題分野「富山の経済の現状と展望」	2014.7.23 富山県警察学校	初任科生62名	
長尾治明	富山県中小企業団体中央会	コーディネーター 中小企業の産学官連携がもたらす効果と可能性	2014.2.24 富山第一ホテル	社会人	官学と中小企業との交流プラザ推進事業「産学官連携シンポジウム」
長尾治明	富山県中小企業団体中央会	富山県産協同組合研修会「北陸新幹線開業によって富山はどう変わるか」	2014.8.21 とやま自遊館立山の間	富山県産協同組合組合員	
長尾治明	富山県中小企業団体中央会	富山県産協同組合研修会「北陸新幹線が地元にもたらす効果」	2015.2.19 ホテルグランテラス富山薫風の間	富山県産協同組合組合員	
長尾治明	富山県中小企業団体中央会	北陸新幹線開業によって富山はどう変わるか	2015.2.13 アクアホテル黒部	富山県産協同組合組合員	

長尾治明	富山国際大学現代社会学部・富山商工会議所共催	第10回産業観光フォーラム2014 パネルディスカッション「北陸新幹線開業が富山の産業観光にもたらす効果とは」コーディネーター	2014.2.7 富山国際会議場2階201・202会議室	社会人	
長尾治明	富山県消防本部総務課	北陸新幹線開業効果を最大限に活かすには	2014.6.9 高岡市消防本部3階	幹部職団員(消防団、消防職員)	
長尾治明	富山県立呉羽高等学校	売れる商品づくりの仕組み	2014.3.7 呉羽高校	高校生	
長尾治明	富山県立氷見高等学校	マーケティングとは	2014.8.26 氷見高校	高校生	
長尾治明	南砺市野球協会	平成26年度南砺市野球協会定時総会記念講演会「地域をスポーツ・野球で元気に」	2014.3.16 南砺市福光中央会館4階菖蒲の間	社会人	
長尾治明	黒部商工会議所	おもてなし講習会「地域ぐるみで観光客を受け入れるために」	2015.2.13 黒部市民会館101号室	社会人	
長尾治明	富山商工会議所	地域ぐるみで観光客を受け入れるために	2015.2.27 富山商工会議所9階99号室	社会人	
長尾治明	魚津商工会議所	地域ぐるみで観光客を受け入れるために	2015.3.5 ありそードム研修室		
長尾治明	木曜勉強会	北陸新幹線開業後、富山の地域社会はどう変わるか	2014.9.11 高志会館2F瑞島	社会人	
長尾治明	共栄ホームズ	平日住宅を活用し生活を楽しむ時代	2014.11.23	社会人	
長尾治明	北日本新聞	正月特集 産業観光「公開が職場を変える」	2015.1.1	社会人	
長尾治明	富山第一銀行	婦中町総会「婦中のまちづくりと空き家対策」	2015.2.6 富山電気ビルディング	婦中町住民	
長尾治明	富山国際大学地域交流センター	ニューツーリズム(学び・共感型観光)講座	2014.8/18、8/25、9/1、9/29、10/6	社会人	
長尾治明	富山国際大学地域交流センター	北陸新幹線開業後、富山はどう変わるか	2014.8/29、9/5、9/12、9/26、10/3	社会人	
長尾治明	富山国際大学地域交流センター	顧客データの収集と活用法について	2014.10/10、10/17、10/24、10/31、11/7	社会人	
長尾治明	富山国際大学地域交流センター	サテライト市民講座 高齢者と地域づくり～地域活動のあれこれ～	2014.9.6	社会人	
長尾治明	富山国際大学地域交流センター	サテライト市民講座 人間関係から考える営業活動	2014.10.18	社会人	
長尾治明	富山国際大学地域交流センター	サテライト市民講座 CS経営とリーダーシップ	2014.11.8	社会人	
後藤智	市民団体「おへその学校とやま」	「日本の政治と民主主義」考一法学からのアプローチ	2014年8月10日	一般	出講プログラムとほぼ同テーマ。
斎藤敏子	富山県生協	サービスマネジメントについて	2014年2月26日	役員	出講プログラム
斎藤敏子	呉羽高校	感動を生むサービスとは	2014年3月7日	招請講義 2年生	同上
斎藤敏子	富山県生協	感動を生む顧客満足とは	2014年3月29日	一般職	同上
斎藤敏子	(社)富山県バス協会	北陸新幹線開業に向けて感動を生む顧客満足とは	2014年4月23日	県内バス事業者の運転手及び運行管理	同上
斎藤敏子	富山県警察学校	市民応接	2014年4月24日	一般職初任科研修	同上
斎藤敏子	富山県観光未来創造塾	北陸新幹線開業に向けて	2014年6月19日	県内観光産業の従事者	同上
斎藤敏子	富山県生協	リーダーシップ研修	2014年6月28日	管理職	同上
斎藤敏子	南砺福光高校	観光を支えるホスピタリティ・マインド	2014年7月25日	1、2年生希望者、3年生全員	同上
斎藤敏子	氷見市役所	市民に対する接遇のあり方	2014年8月18日	氷見市役所一般行政職員	同上
斎藤敏子	富山県民生涯学習カレッジ	観光を支えるホスピタリティ・マインド	2014年9月7日	市民	同上
斎藤敏子	氷見市役所	氷見市窓口改革研修・コンサルティング業務プロポーザル審査会議	2014年9月25日	研修会社の講師	審査委員長
斎藤敏子	高岡市役所	北陸新幹線開業に向けた観光と交流を考える	2014年10月1日	高岡市役所全職員	出講プログラム
斎藤敏子	高岡商工会議所	高岡土産品100選	2014年11月28日		同上
斎藤敏子	富山県主催 富山おもてなしバスガイド研修	観光を支える最上級のおもてなし	2015年2月2日	富山県・石川県のバスガイド	同上
斎藤敏子	富山県主催 富山おもてなしバスガイド研修	観光を支える最上級のおもてなし	2015年2月18日	富山県バスガイド・北陸新幹線の新人アテ	同上

斎藤敏子	新富観光	感動を生む顧客満足を考える	2015年4月7日	全職員	同上
佐藤綾子	石動高校	日本の企業のグローバル化を考えてみよう	2014年7月4日	石動高校学生1～3年生合同	出講プログラム
佐藤綾子	富山商業高校	金融市場における企業評価の現在～リーマンショック前以上に強まる短期利益重視の圧力～	2015年7月16日	富山商業高校教職員、富山商業振興会会員	出講プログラム
佐藤悦夫	泊高校	進路ガイダンス(観光)	2014年7月8日	2年生	進路ガイダンス
佐藤悦夫	付属高校	あなたも今日からツアープランナー	2014年10月25日	1年生	高大連携
佐藤悦夫	泊高校	五箇山の観光の現状と課題	2015年1月20日	観光ビジネスコース3年生	出講プログラム
佐藤悦夫	泊高校	観光資源の見せ方～本物と演出	2015年3月19日	観光ビジネスコース、2年生、1年生、一般市民	出講プログラム
助重雄久	伏木高校	観光の仕事について	2014年4月17日	3年生進学希望者	進学説明会
助重雄久	立山黒部ジオパーク推進協議会	ジオサイトをつなぐ、ジオパークをつなぐー地域連携の重要性ー	2014年5月24日	立山黒部ジオパーク推進協議会会員	講演
助重雄久	黒部市中央公民館	豊かな自然が育む黒部の産業や観光資源	2014年7月12日	黒部市民	市民大学講座
助重雄久	福野高校	地域のさまざまな課題について考えよう	2014年11月25日	普通科・農業環境科1学年	富山県教育委員会 高大連携未来を拓く 人材育成事業(特別 授業および教員研
助重雄久	富山国際大学付属高校	観光専攻で学べること、目指せること	2014年12月4日	フロンティアコース1学年	富山国際大学付属 高校高大連携授業
助重雄久	福野高校	地域課題学習全体発表会の審査・講評	2015年3月5日	普通科・農業環境科1学年	富山県教育委員会 高大連携未来を拓く 人材育成事業(特別
助重雄久	大門高校	デジタル地図で世界や富山を考えよう	2015年3月17日	普通科1学年	富山県教育委員会 高大連携未来を拓く 人材育成事業(特別
湯 麗敏	泊 高校	中国事情(文化・言葉)	2014年11月17日	2年生観光ビジネスコース	出講プログラム
谷口新一	富山いずみ高校	フードマイレージから日本の食を考える	2014年8月1日	総合学科3年生	環境学習会
バブリー ボグダン	水橋高校	観光英語を体験しよう	2014年12月5日	水橋高校生	出講プログラム

(2) 外部委員会・審議会

教員の外部委員会・審議会における活動状況は以下のとおりである。

氏名	機関名	名称	期間	回数等	その他
上坂博亨	東京農業大学	間伐材を原料とした木炭水性ガスによる非エンジン式発電および地域内利活用システムの構築	2014年4月～2015年3月	3回	委員、1回3時間
上坂博亨	富山高等専門学校	シニアフェロー	2014年4月～2015年3月	2回	委員、1回2時間
上坂博亨	富山市	富山市環境未来都市農村活性化プロジェクトチーム	2014年4月～2014年10月	3回	委員、1回2時間
上坂博亨	富山市	富山市グリーンプランパートナーシップアドバイザー会議	2014年11月～2015年2月	3回	委員、1回2時間
上坂博亨	富山県	富山県未利用エネルギー利活用研究会	2014年8月～2015年2月	3回	委員、1回2時間
上坂博亨	富山県	とやま21世紀水ビジョン推進会議	2014年7月～2015年2月	2回	委員、1回2時間
上坂博亨	富山県	富山県地球温暖化対策小委員会	2014年7月～2015年2月	2回	委員、1回2時間
上坂博亨	富山県	富山県公共事業評価委員会	2014年7月～2015年3月	2回	委員、1回2時間
大谷孝行	富山県バスケットボール協会	富山県バスケットボール協会理事会	2014年4月～2015年3月	5回	大学部門理事、1回2時間
大谷孝行	北信越大学バスケットボール連盟	北信越大学バスケットボール連盟理事会	2014年4月～2015年3月	2回	理事、1回1時間
大西一成	大学コンソーシアム富山	地域貢献部会委員	2014年4月～(現在に至る)	会議・コンソーシアム主催講演会等に2回出席(授業のため出席できない場合もあった)	委員は1回2時間程度
尾畑納子	北陸財務局	国有財産北陸地方審議会	2014年3月～2016年2月	1回/年	委員、1回2時間
尾畑納子	(財)砂防・地すべり技術センター	理事会	2008年8月～	2回/年	理事
尾畑納子	富山県	富山県環境審議会・廃棄物部会	2014年3月～2016年3月	2回/年	委員、部会長1回2時間
尾畑納子	富山県	富山県水と緑の森づくり会議	2014年4月～2016年4月	2回/年	委員、1回1.5時間
尾畑納子	富山県	富山県消費生活審議会	2013年11月～2015年6月	2回/年	委員長、1回1.5時間
尾畑納子	富山県	21世紀水ビジョン	2014年7月	2回/年	委員、1回2時間
尾畑納子	富山県	富山県再生エネルギービジョン	2013年～	2回/年	委員、1回2時間
尾畑納子	富山市	富山市環境審議会	2014年～	2回/年	委員、1回2時間
尾畑納子	富山市	富山市教育委員	2012年5月～	12回/年	委員、1回1時間
尾畑納子	氷見市	氷見市環境審議会	2014年2月～	1回/年	委員長、1回1.5時間
尾畑納子	チューリップテレビ	番組審議会	2006年5月～2015	12回/年	副委員長
尾畑納子	日本繊維製品消費科学会	学会賞推薦委員会	2014年～	1回/年	委員(評議員)
尾畑納子	日本繊維製品消費科学会北陸支部	学会運営委員会	2013年5月～2015年5月	2回/年	副支部長
尾畑納子	日本繊維機械学会北陸支部	学会運営委員会	2014年6月～2016年6月	2回/年	支部長
才田春夫	富山県青年海外協力隊育てる会	理事会	2014年4月～2015年3月	2回	理事会、総会1回3時間
才田春夫	富山県ボート協会	理事会	2014年4月～2015年3月	1回	理事会、1回2時間
高橋哲郎	富山労働局	富山地方最低賃金審議会	2014年4月～2015年3月	6回	会長、1回2～3時間程度
高橋哲郎	富山大学研究推進機構産学連携推進センター	とやまビジネスプランコンテスト実行委員会	2014年4月～2015年3月	4回(内、出席1回)	委員、1回2時間程度
高橋哲郎	富山労働局	専門家派遣・相談等支援事業に係る企画書評価委員会	2015年3月	1回	委員長、2時間程度
高橋光幸	高岡高校	スーパーグローバルバスハイスクール(SGH)運営指導委員会	2014年7月～2015年3月	2回	委員
高橋光幸	南砺市	南砺市交流観光まちづくりプラン推進会議	2014年7月30日	1回	委員長
高橋光幸	南砺市	城端駅交通・情報拠点化基本構想策定協議会	2014年12月～2015年4月	4回	会長

長尾治明	中部経済産業局	小規模事業者等JAPANブランド育成・地域産業資源活用支援補助金評価委員会評価委員	～2014.3.31	1回	
長尾治明	中部経済産業局	中小企業・小規模事業者ワンストップ総合支援事業よろず支援拠点の企画提案書評価委員会及び同事業コーディネーター選定に関する審査委員会富山県・石川県委員会(委員会)	～2014.3.31	1回	
長尾治明	中部経済産業局	地域産業資源活用事業評価委員会	～2015.3.31	3回	
長尾治明	中部経済産業局電力・ガス事業北陸支局	創業支援事業計画認定評価委員会(委員長)	2014.5.7～2015.3.31	3回	
長尾治明	富山労働局職業安定部	富山県地域訓練協議会及び富山県地域ジョブ・カード運営本部会議(会)	～2015.3.31	2回	
長尾治明	独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構富山職業支援センター	富山県独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構運営協議会(委員長)	～2014.3.31	2回	とやま自遊館神通の間
長尾治明	国土交通省北陸地方整備局富山国道事務所	富山県道路安全・円滑化検討委員会(委員長)	～2014.3.31	2回	
長尾治明	国土交通省北陸地方整備局	社会資本整備審議会道路分科会第4回北陸地方小委員会	2014.3.4	1回	
長尾治明	富山県知事政策局	新幹線戦略とやま県民会議	～2015.3.31	3回	
長尾治明	富山県知事政策局	北陸新幹線開業ミニ番組制作・放映事業委託業務プロポーザル審査	2014.6.2	1回	
長尾治明	富山県知事政策局	新幹線開業県民機運醸成・PR補助金検討会(委員長)	～2015.3.31	2回	
長尾治明	富山県知事政策局	北陸新幹線開業前日首都圏PR事業業務委託プロポーザル審査会	2014.11.4	1回	
長尾治明	富山県観光・地域振興局地域振興課	観光・交流戦略プロジェクトチーム(座長)	～2015.3.31	3回	
長尾治明	富山県観光・地域振興局地域振興課	「富山県推奨とやまブランド」育成・認定に関する委員会	～2015.3.31	2回	
長尾治明	富山県観光・地域振興局観光課 富山県タクシー協会	おもてなし優良タクシードライバー表彰事業選考委員会(委員長)	2014.11.19	1回	
長尾治明	富山県経営管理部財政課	富山県公共事業評価委員会(委員長)	～2015.3.31	3回	
長尾治明	富山県建築振興課・地域振興課	「空き家対策有識者懇談会」からの提言手交式	2014.1.17	1回	
長尾治明	富山県厚生部くすり政策課	富山県医薬品産業活性化懇談会	2014.1.29	1回	
長尾治明	富山県厚生部障害福祉課	富山県工賃向上支援計画検討委員会(委員長)	2014.10.1～2016.9.30	3回	
長尾治明	富山県商工労働部労働雇用課	富山県中小企業の振興と人材の育成等に関する県民会議人材育成専門部会(委員長)	～2015.3.31	2回	
長尾治明	富山県商工労働部経営支援課	富山県地域産業人材育成・販路開拓支援事業費補助金及び伝統工芸品産業支援事業費交付検討委員	～2015.3.31	3回	
長尾治明	富山県商工労働部経営支援課	とやま新事業創造推進検討会(委員長)	～2015.3.31	3回	
長尾治明	富山県商工労働部商工企画課	第4回大規模展示施設あり方懇談会	～2016.5.31	3回	
長尾治明	富山県商工労働部商業まちづくり課	富山県大規模小売店舗立地審議会(委員長)	～2014.3.31、～2015.3.31	3回～4回	
長尾治明	富山県農林水産部	「とやま食の匠」認定に関する懇談会(委員長)	2014	1回	
長尾治明	富山県商工労働部労働雇用課	県内企業処遇改善支援事業審査委員会	～2014.3.31	2回	
長尾治明	富山県教育委員会スポーツ・保険課	富山県野球協議会	～2015.3.31	3回	
長尾治明	公益財団法人富山県新世紀産業機構	とやま新事業創造基金 地域資源ファンド・農商工連携ファンド事業審査会(委員長)	～2015.3.31	2回	
長尾治明	公益財団法人富山県新世紀産業機構	ビジター等部会(委員長) 販路開拓挑戦応援事業(県外・国外) ビジター対応ビジネス支援事業	2014.5.26、2014.6.4	2回	
長尾治明	公益財団法人富山県新世紀産業機構	とやま中小企業チャレンジファンド事業選定委員会(委員長)	2014.5.13～2015.3.31	2回	
長尾治明	公益財団法人富山県新世紀産業機構	創業・ベンチャー挑戦応援事業	～2015.3.31	2回	

長尾治明	一般財団法人富山産業展示館	富山産業展示館新展示場増築工事基本設計業務に係る公募型プロポーザル審査会	2014.6.30	2回	
長尾治明	富山県中小企業団体中央会	官学と中小企業との地の交流プラザ推進事業における検討委員会	～2015.3.31	2回	
長尾治明	富山県中小企業団体中央会	中小企業等協同組合法の施行65周年記念、中小企業団体の組織に関する法律施行55周年記念被表彰候補者審査委員会	2014.9.16	1回	
長尾治明	黒部市都市計画課	黒部市まちづくり交付金評価委員会(委員長)	～2015.3.31	2回	
長尾治明	富山市商工労働部薬業物産課	富山市商品力向上支援事業プロジェクト委員会(委員長)	～2014.3.31	3回	
長尾治明	富山市企画管理部企画調整課	旧総曲輪小学校跡地活用事業事業者検討会議	2014.8.29～ 2015.3.31	3回	
長尾治明	富山市都市整備部	都市再生整備計画(山室地区)事後評価委員会(委員長)	～2015.3.31	2回	
長尾治明	南砺市行政改革推進本部事務局	南砺市行政改革懇談会(会長)	～2015.3.31	3回	
長尾治明	高岡市地域安全課	高岡市総合交通戦略策定協議会	～2014.3.31	3回	
長尾治明	射水市都市計画課	射水市まちづくり交付金(小杉地区)評価検討会(委員長)	2014.3.31	2回	
長尾治明	滑川市役所生活環境課	滑川市地域公共交通会議(委員長)	～2015.3.31	2回	
長尾治明	滑川市企画政策課	滑川市行政改革懇談会(委員長)	～2015.3.31	2回	
長尾治明	砺波市建設水道部都市整備課	砺波駅前広場イメージアップ基本計画検討委員会(委員長)	～2015.3.31	4回	
長尾治明	㈱ケーブルテレビ富山	放送番組審議会(会長)	2015.3.31	3回	
長尾治明	富山県商工労働部商業まちづくり課	富山県大規模小売店舗立地審議会(委員長)	～2014.3.31、～ 2015.3.31	3回～4回	
長尾治明	黒部商工会議所	全国展開プロジェクト推進委員会	～2015.3.31	3回	
長尾治明	富山県商工会連合会	小規模事業者持続化補助金事業の地方審査委員会(委員長)	2014.4.1～ 2015.3.31	3回	
長尾治明	富山県商工会議所連合会	富山県広域産業観光推進委員会ワーキンググループ	～2015.3.31	4回	
長尾治明	一般社団法人富山県食品産業協会	地域食品評価会の評価委員	2014.2.25	1回	
長尾治明	富山商工会議所	「富山市価値創造プロジェクト」特別委員会	2014.3.17	1回	
長尾治明	富山商工会議所	地域力活用新事業∞全国展開プロジェクト	2015.3.31	4回	
長尾治明	コラボ産学官富山支部事務局	「コラボ産学官富山支部」第6回通常総会	2014.5.16	1回	
長尾治明	コラボ産学官富山支部事務局	「コラボ産学官富山支部」理事会	～2014.3.31	2回	
長尾治明	とみしんビジネスクラブ事務局	「とみしんビジネスクラブ」設立総会	2014.7.15	1回	
長尾治明	北陸大学野球連盟事務局	北陸大学野球連盟理事会	～2014.3.31	4回	
村瀬直幸	富山県	富山県職業能力開発審議会	2014年4月～2015年3月	2回	委員(会長代理)、1回2時間
後藤智	富山県インターンシップ推進協議会	富山県インターンシップ推進協議会運営委員会	2014年以前より	4回、他に副委員長・事務局との打合せ。	2014年3月以後は委員長、それ以前は副委員長。1回2時間
後藤智	富山労働局	若年者地域連携事業に関する技術審査委員会	2014年2月～3月	1回	委員長。3時間。
後藤智	富山労働局	人材不足分野における人材確保のための雇用整備改善促進事業(啓発実践コース)に係る技術審査委員会	2014年3月	1回	委員長。3時間。3時間半。
斎藤敏子	国土交通省	地域政策局観光地域づくり人材育成支援	2009年～現在	1回	委員、1回2時間
斎藤敏子	富山県	とやま観光未来創造塾	2011年1月～現在	1回	検討委員及び講師、1回2時間
斎藤敏子	富山市	観光振興課策定会議	2011年4月～現在	1回	委員
斎藤敏子	富山市	観光実践プラン策定委員会	2012年4月～現在	1回	委員
斎藤敏子	高岡商工会議所	高岡土産100選事業	2012年4月～現在	1回	審査委員

斎藤敏子	富山県	県立文化施設耐震化・整備充実検討委員会	2013年4月～2015年3月	2, 3回	委員、1回2時間
助重雄久	黒部市	地域観光ギャラリー展示空間検討委員会	2014年4月～2014年12月	委員会(現地確認含む)2回、メール等による展示内容検討随時	委員長、委員会1回3時間
高尾哲康	情報処理学会	情報処理学会北陸支部運営委員会	2009年4月～	5回/年、メール審議	運営委員
谷口新一	環境省	環境カウンセラー			
谷口新一	富山県	富山県地球温暖化防止活動推進員			
パブリー ボグダン	とやま国際センター	富山県ロシア語スピーチコンテストの審査員	2014年11月9日	1回	
パブリー ボグダン	富山市教育委員会市民学習センター	「世界の国々」講演	2014年6月	1回	

(3) 地域団体等との連携

教員の地域団体等との連携活動の状況は以下のとおりである。

氏名	団体名	名称	期間	内容	その他
上坂博亨	富山県小水力利用推進協議会	小水力普及啓発と相談対応	2014年4月～2015年3月	協議会の会長として県内小水力事業へのアドバイスと協会の運営	
上坂博亨	春まちコンサート実行委員会	旧大山町音楽家による定期演奏会	2014年11月～2015年3月	実行委員長	
上坂博亨	(一社)でんき宇奈月プロジェクト	宇奈月温泉活性化プロジェクト	2014年4月～2015年3月	社団法人の副理事長	
上坂博亨	富山県キャンプ協会	富山県のキャンプ普及促進協会	2014年4月～2015年3月	協会の副会長	
上坂博亨	(一社)蓄電型地域交通推進協会	電気自動車を中心とする低炭素型交通システムの推進協会	2014年4月～2015年3月	社団法人の理事	
上坂博亨	NPO法人 エコテクノロジー研究会	エコテクノロジーに関する研究者団体	2014年4月～2015年3月	法人の理事	
大谷孝行	NPO法人生活の発見会 富山集談会	森田療法に基づいた生涯学習活動	2014年4月～2015年3月	来談者に対する相談・助言活動	
大西一成	富山市男女共同参画	富山市男女共同参画サテライト講座	2014年6月14日(土)13:30～15:00	講演会「テーマ「これからの時代の働き方を求めて」	
尾畑納子	富山県消費者協会	富山県消費者グループ支援事業	2014年4月～2015年3月	消費者グループリーダー指導・支援(富山)	副会長
尾畑納子	立山砂防女性サロンの会	世界遺産を目指す運動	2014年4月2015年3月	立山砂防、常願寺川周辺	会長
尾畑納子	NPO法人きんたろう倶楽部	里山再生事業	2013年～	富山市内の里山整備事業	理事
尾畑納子	立山黒部ジオパーク	立山・黒部地域のジオ研究会	2014年3月～	立山・黒部地域のジオパーク広報活動と	監事
才田春夫	氷見細越地区ハトムギ生産者組合	ハトムギオーナー	2014年4月～2015年3月	ハトムギ生産を通じた住民交流	
高橋哲郎	(公財)環日本海経済研究所	共同研究員	2014年4月～2015年3月	韓国経済システムの分析	
高橋光幸	庄川町商工会	地域内資金循環等新事業開発検討事業実行委員会	2014年6月～11月	観光客誘致のための検討	5回
高橋光幸	富山市南商工会(大山支部)	地域内資金循環等新事業開発検討事業プロジェクト委員会	2014年8月～2015年1月	立山山麓に台湾人観光客誘致のための検討	4回
高橋光幸	公益社団法人 青年海外協力協会 中部支部	平成26年度JICA北陸 課題別研修事業 観光振興政策コース	2014年9月～10月	日本の観光政策の歴史と現状、日本の行政組織、観光振興政策に必要な情報収集・分析・統計・モニタリング手法	9月25日、10月17日
長尾治明	北陸大学野球連盟事務局	北陸大学野球連盟	～2016..3.31	理事長	
長尾治明	富山商工会議所	とやま産業観光推進協議会「	～2016..3.31	副会長	
長尾治明	公益財団法人全日本大学野球連盟		～2016..3.31	評議員	
長尾治明	とみしんビジネスクラブ事務局	とみしんビジネスクラブ	～2016..3.31	理事	
長尾治明	富山県専門技術学院	富山国際大学観光ビジネス科(定員10名)	2014年10月01日～2015年03月31日	大学等委託訓練コース(実践的人材育成)	
後藤智	富山県自治体問題研究所		2014年以前より	富山県における「地方自治」の確立・充実の	理事長。
斎藤敏子及びゼミ生	朝日町	笹川自治振興会プロジェクト	2014年～2017年(予定)	笹川地区振興、マップ作成、パンフレット作	適宜
斎藤敏子	氷見市	氷見市窓口改革	適宜	窓口業務改革・接遇改革	コンサルティング活動
斎藤敏子及びゼミ生	八尾山田商工会女性部	元気な商工会地域づくり支援事業	2014年～現在	神通回廊マップ作成・活性化事業・タウン	3、4回活動
斎藤敏子及びゼミ生	NPO法人観光創造会議		2010年～現在	市内観光活性化事業	5、6回程度活動
斎藤敏子及びゼミ生	加賀屋		2010年～現在	接遇研修及び講演会	2回
佐藤悦夫	JICA	2014年度「JICA北陸 観光振興政策」	2014年10月15日～2014年10月16日	JICA研修員に対する観光講義	
佐藤悦夫	NEXCO中日本	NEXCO中日本とのワークショップ	2014年11月7日	五箇山の観光の現状について報告、ワークショップのコメント	
湯 麗敏	富山市民国際交流協会	国際教養委員会のボランティア語学教室	2014年通年(月一回)	中国語入門教室の教育指導	
谷口新一	NPO法人環・日本海	森里海連携シンポジウム	2015年2月7日	パネリスト	(北日本新聞ホール)
パブリー ボグダン	国際交流協会	東海市国際交流協会「ウクライナの文化に触れる集い」	2014年6月7日	ウクライナの文化について発表した	
パブリー ボグダン	大学コンソーシアム富山	富山県高大連携セミナー	2015年1月21日	富山県高大連携セミナーに積極的に参加した	

2. 課題

(1) 授業・学務優先原則の順守

出講プログラム、外部委員会・審議会、地域団体等との連携は、本学部にとって重要な活動である。したがって、今後も、授業および学務優先の原則を守りながら、適切に対応していくことが大切である。

(2) 学内手続きの順守

出講プログラム、外部委員会・審議会、地域団体等との連携等の活動を行うにあたっては、事前に学内の必要な手続きを経ることが大切である。